

KODEN

装備説明書

カラーLCD 魚群探知機

《Broadband》

CVS-FX1

CVS-FX1 装備説明書

Doc No: 0092601111

図書改訂歴

No.	図書番号-改版番号	改訂日 (年/月/日)	改訂内容
0	0092601111-00	2011/06/10	初版
1	0092601111-01	2011/09/15	重要なお知らせ、仕様、第1章、第2章
2	0092601111-02	2012/03/14	機器構成、仕様、第1章、第2章
3	0092601111-03	2012/09/26	第1章、第2章、住所変更、表紙
4	0092601111-04	2013/12/25	システム構成、機器構成、外観図、第1章、第2章
5	0092601111-05	2014/08/26	外観図、第1章
6	0092601111-06	2015/11/06	第1章、事業所名変更
7	0092601111-07	2016/11/08	機器構成、仕様、第2章、住所変更、部署名変更
8	0092601111-08	2017/06/19	第1章
9	0092601111-09	2019/07/09	システム構成、機器構成、仕様、第2章
10	0092601111-10	2020/09/24	第1章、第2章、部署名変更
11	0092601111-11	2021/07/13	住所変更
12	0092601111-12	2022/09/28	第1章

図書番号改版基準

図書の内容に変更が生じた場合は、版数を変更します。図書番号は、表紙の右下および各ページのフッタ領域の左、または右側に表示しています。

© 2011-2022 著作権は、株式会社 光電製作所に帰属します。

光電製作所の書面による許可がない限り、本装備説明書に記載された内容の無断転載、複写等を禁止します。

本装備説明書に記載された仕様、技術的内容は予告なく変更する事があります。また、記述内容の解釈の齟齬に起因した人的、物的損害、障害については、光電製作所はその責務を負いません。

重要なお知らせ

- 装備説明書(以下、本書と称します)の複写、転載は当社の許諾が必要です。無断で複写転載することは固くお断りします。
- 本書を紛失または汚損されたときは、お買い上げの販売店もしくは当社までお問合せください。
- 製品の仕様および本書の内容は、予告なく変更される場合があります。
- 本書の説明で、製品の画面に表示される内容は、状況によって異なる場合があります。イラストのキーや画面は、実際の字体や形状と異なっていたり、一部を省略している場合があります。
- 記述内容の解釈の齟齬に起因した損害、障害については、当社は一切責任を負いません。
- 地震・雷・風水害および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失・誤用・その他異常な条件下での使用により生じた損害に関しては、当社は一切責任を負いません。
- 製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関しては、当社は一切責任を負いません。
- 万一、登録された情報内容が変化・消失してしまうことがあっても、故障や障害の原因にかかわらず、当社は一切責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関しては、当社は一切責任を負いません。

干渉軽減について他船から申し入れがあった場合は、広帯域魚群探知機、複数周波を用いる魚群探知機、単一周波を用いる魚群探知機の順で、使用周波数の変更、送波音圧レベルの低減の措置を講じてください。

安全にお使いいただくために

本装備説明書に使用しているシンボル

本装備説明書には、以下のシンボルを使用しています。各シンボルの意味をよく理解して、保守点検を実施してください。

シンボル	意味
 警告	警告マーク 正しく取り扱わない場合、死亡または重傷を負う危険性があることを示します。
	高圧注意マーク 正しく取り扱わない場合、感電して死亡または重傷を負う危険性があることを示します。
 注意	注意マーク 正しく取り扱わない場合、軽度の傷害または機器が損傷する危険性があることを示します。
	禁止マーク 特定の行為を禁止するマークです。禁止行為はマークの周辺に表示されます。

装備上の注意事項

	内部の高電圧に注意 生命の危険に関わる高電圧が使用されています。この高電圧は、電源スイッチを切っても回路内部に残留している場合があります。高電圧回路には不用意に触れないように、保護カバーや高電圧注意のラベルが貼付されています。安全のために、必ず電源スイッチを切断し、コンデンサーに残留している電圧を適切な方法で放電してから、内部を点検してください。保守点検作業は、弊社公認の技術者が実施してください。
 警告	船内電源は必ず「断」 作業中に不用意に電源スイッチが投入された結果感電する事があります。このような事故を未然に防ぐため、船内電源ならびに本機の電源スイッチは必ず切断してください。さらに、「作業中」と記載した注意札を本機の電源スイッチの近くに取り付けておく安全です。
 警告	塵埃に注意 塵埃は呼吸器系の疾患を引き起こすことがあります。機器内部の清掃の際には塵埃を吸い込まないように注意してください。安全マスクなどの装着をお勧めします。

 注意	装備場所の注意 過度に湿気のこもる場所、水滴の掛かるところに装備しないで下さい。表示画面の内側に曇りが発生したり、内部が腐蝕する場合があります。
 注意	静電気対策 船室の床などに敷いたカーペットや合繊の衣服から静電気が発生し、プリント基板上の電子部品を破壊することがあります。適切な静電気対策を実施したうえで、プリント基板を取扱ってください。
 注意	送受波器の装備 送受波器は、気泡やノイズの影響が無い場所に装備してください。気泡やノイズは、本機の性能を著しく損ないます。

取扱上の注意事項

 警告	分解・改造をしないでください。故障・発火・発煙・感電の原因となります。故障の場合は、販売店もしくは当社へ連絡してください。
 警告	発煙・発火のときは、船内電源と本機の電源を切ってください。火災・感電・損傷の原因となります。
	残留高圧に注意 電源を切断後数分間は、高電圧が内部のコンデンサーに残留していることがあります。内部を点検する前に、電源切断後少なくとも5分待つか、又は適切な方法で残留電圧を放電してから作業を始めてください。
 注意	本機に表示される情報は、直接航海用に供するためのものではありません。航海には必ず所定の資料を参照してください。
 注意	ヒューズは規定のものを使用してください。規定に合わないヒューズを使用すると、火災や発煙、故障の原因となります。
 注意	必ず、送受波器を水中に入れてから、送信してください。水中に入れずに送信すると、故障の原因となります。

もくじ

図書改訂歴	i
重要なお知らせ	ii
安全にお使いいただくために	iii
本装備説明書に使用しているシンボル	iii
装備上の注意事項	iii
取扱上の注意事項	iv
もくじ	v
システム構成	vii
機器構成	viii
外観図	xii
仕様	xiii

第 1 章 設置	1-1
1. 1 取り付け上の注意事項	1-1
1.1.1 構成品の開梱	1-1
1.1.2 構成品、付属品の検査	1-1
1.1.3 設置場所の選定	1-1
1.1.4 ケーブルの敷設と接続	1-2
1.1.5 取り付け後の確認	1-2
1. 2 送受信表示機の設置	1-2
1.2.1 卓上設置	1-3
1.2.2 フラッシュマウント設置	1-5
1. 3 送受波器の取り付け	1-6
1.3.1 船底装備の場合	1-6
1. 4 結線	1-14
1.4.1 表示機へのケーブル接続	1-14
1. 5 CVS-FX1 と Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の接続	1-24
1.5.1 Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の 接続	1-24
1.5.2 Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の設定	1-29
1. 6 入出力センテンスの一覧	1-35
1.6.1 入力センテンス	1-35
1.6.2 出力センテンス	1-35

第 2 章 調整	2-1
2. 1 送受波器の設定	2-1
2.1.1 高周波の送受波器の種類設定	2-1
2.1.2 低周波の送受波器の種類設定	2-1
2. 2 送受波器の周波数設定	2-2
2.2.1 高周波の送受波器の周波数設定	2-2

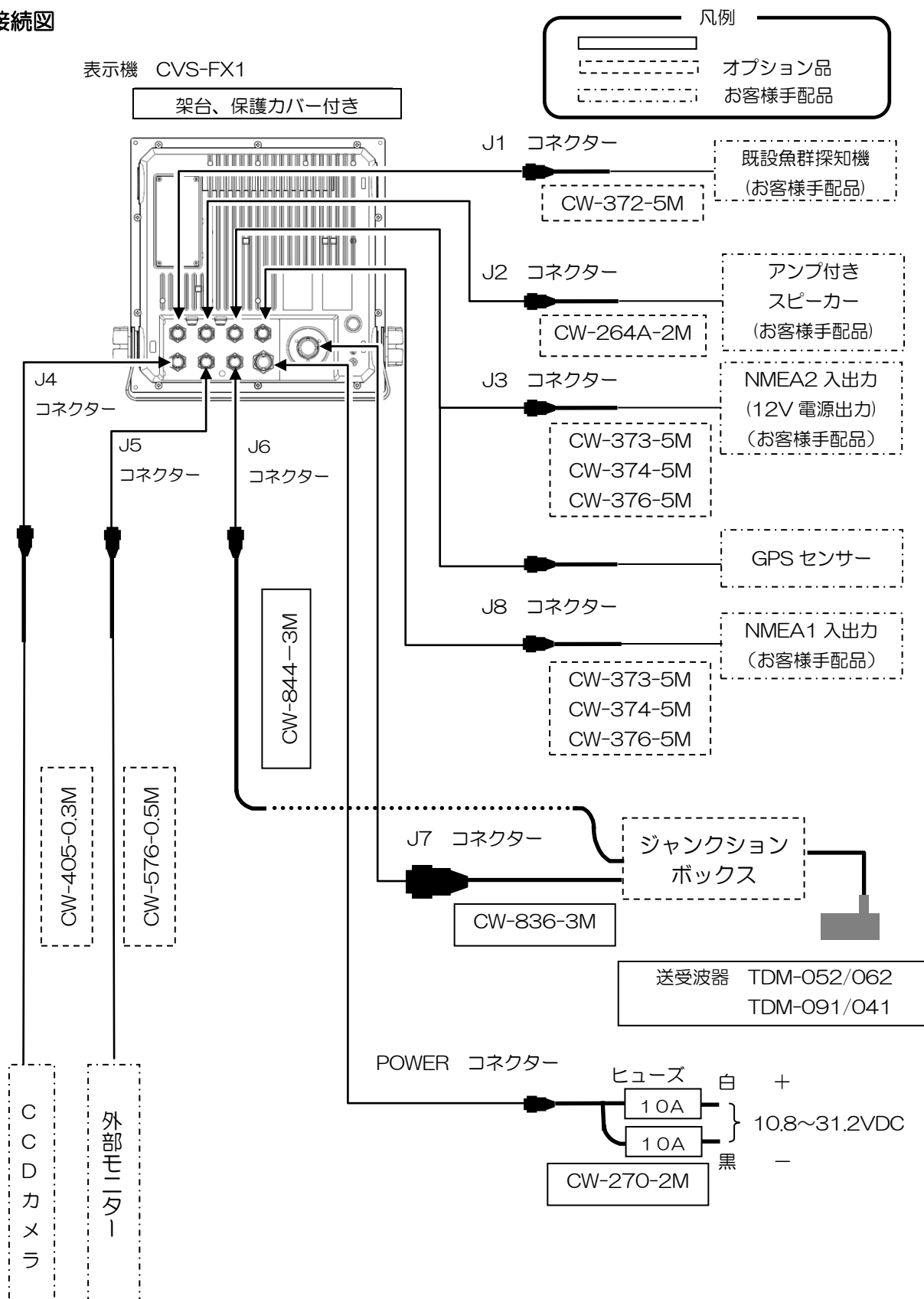
2.2.2	低周波の送受波器の周波数設定.....	2-3
2. 3	送受波器の指向角設定.....	2-3
2.3.1	高周波の送受波器の指向角設定.....	2-3
2.3.2	低周波の送受波器の指向角設定.....	2-4
2. 4	海底検出開始位置の設定.....	2-4
2.4.1	高周波の海底検出開始位置設定.....	2-4
2.4.2	低周波の海底検出開始位置設定.....	2-5
2. 5	吃水設定.....	2-5
2. 6	送受波器の感度設定.....	2-5
2. 7	出力制限の設定.....	2-6
2.7.1	出力制限メニューの表示.....	2-6
2.7.2	高周波の出力制限の設定.....	2-6
2.7.3	低周波の出力制限の設定.....	2-7
2.7.4	[出力制限]の設定値と[メニュー][映像調整]の[送信出力]の設定値との関係.....	2-7

第 3 章 保守 3-1

3. 1	点検.....	3-1
3. 2	清掃.....	3-1
3.2.1	表示機.....	3-1
3.2.2	送受波器.....	3-2
3. 3	ヒューズ交換.....	3-2
3. 4	故障診断.....	3-2
3.4.1	修理を依頼するときに必要な情報.....	3-2
3.4.2	診断テスト.....	3-3
3.4.3	LCD テスト.....	3-4
3.4.4	システムの初期化.....	3-4
3.4.5	プログラム更新.....	3-5
3. 5	故障かなと思ったら.....	3-6

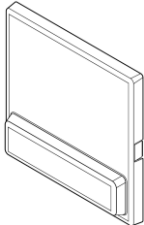
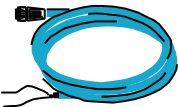
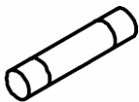
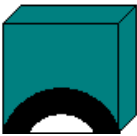
システム構成

接続図

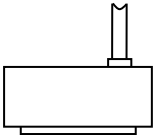
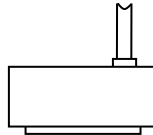
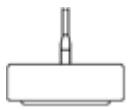
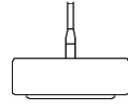


機器構成

標準機器構成リスト

No	品目名称	型名	備考	重量/ 長さ	数量
1	表示機 	CVS-FX1	取り付け架台、ノブ付き	9.1kg	1
2	保護カバー 	A30MB10250		390 g	1
3	DC 電源ケーブル 	CW-270-2M	片端 5P コネクター付き	2m	1
4	ヒューズ 	F-7161-10A/N30C-125V 円筒(φ6.4×30)	主電源用 通常溶断型		2
5	自己融着テープ 	エフコテープ No.2[T.5×20MM×10M]		10m	1
6	送受波器	次項の送受波器の種類参照	送受波器ケーブル		1
7	取扱説明書基礎編	CVS-FX1.BM.J	和文		1
8	取扱説明書応用編	CVS-FX1.FM.J	和文		1
9	操作早見表	CVS-FX1/FX2/FX2BB.QR.J	和文		1
10	装備説明書	CVS-FX1.IM.J	和文		1
11	メニューリスト	CVS-FX1/FX2/FX2BB.ML.J	和文		1
12	送受波器用ケーブル	CW-836-3M	5P コネクター付き/片端未処理	3m	1
		CW-844-3M	水温・船速センサー接続用	3m	1

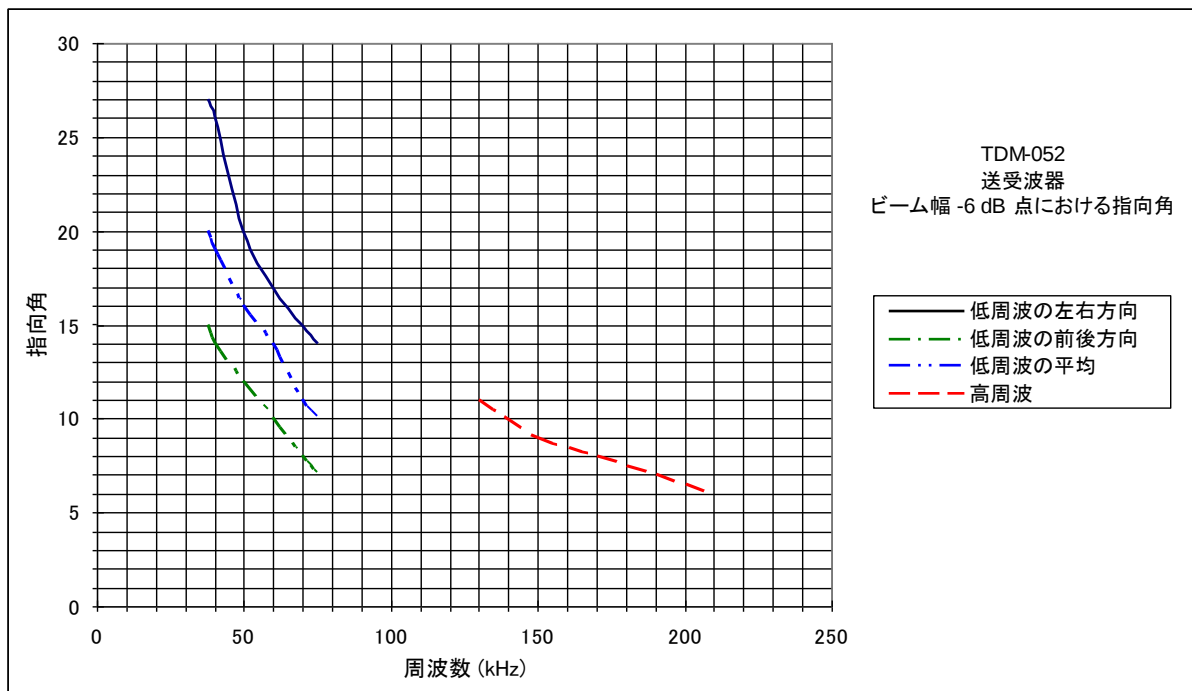
送受波器の種類

No	規格	周波数 出力	材質 /ケーブル長 /ケーブル径	装備方法	指向角・半減全角 (-6 dB) (左右×前後) -6dB
1	TDM-O52 	低周波 38~75kHz 高周波 130~210kHz	ゴム 15m φ11	船底装備	<低周波> (38kHz) 27° × 14° (60kHz) 18° × 10° (75kHz) 14° × 7° <高周波> (130kHz) 11° (170kHz) 8° (210kHz) 7°
2	TDM-O62 	低周波 38~75kHz 高周波 85~135kHz	ゴム 15m φ11	船底装備	<低周波> (38kHz) 27° × 14° (60kHz) 18° × 10° (75kHz) 14° × 7° <高周波> (85kHz) 17° (100kHz) 13° (135kHz) 10°
3	TDM-O41 	50/200kHz	ウレタン 15m φ11	船底装備 舷側装備	(50kHz) 30° × 30° (200kHz) 30° × 30°
4	TDM-O91 	低周波 42~65kHz 高周波 130~210kHz	ウレタン 15m φ11	船底装備 舷側装備	<低周波> (42kHz) 35° (65kHz) 22° <高周波> (130kHz) 14° (210kHz) 8°

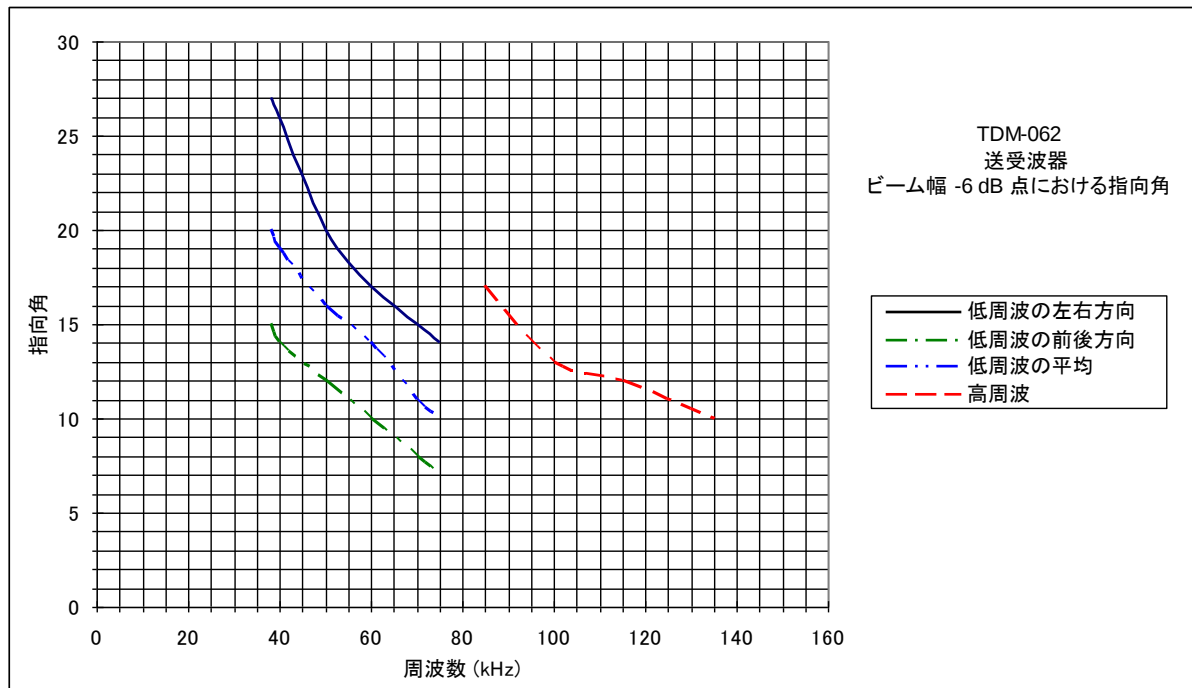


注意：広帯域送受波器（TDM-O52、TDM-O62、TDM-O91）は空中で送信してはいけません。破損します。

TDM-052 の周波数による指向角変化



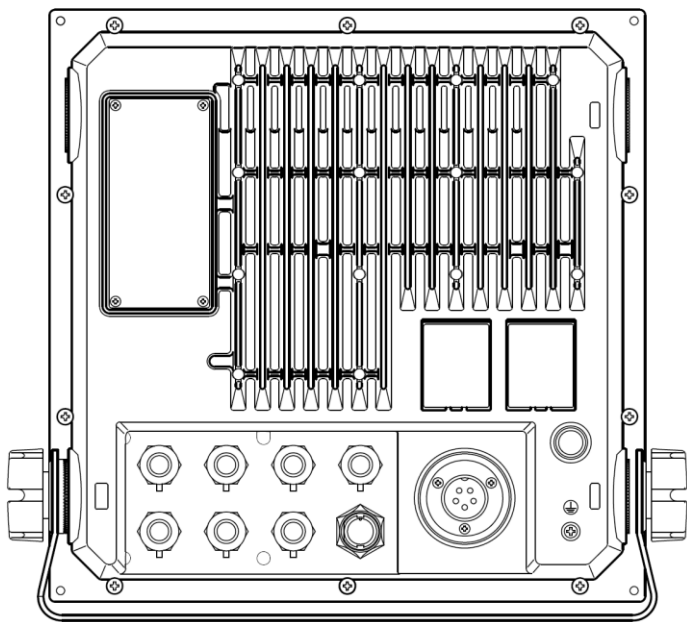
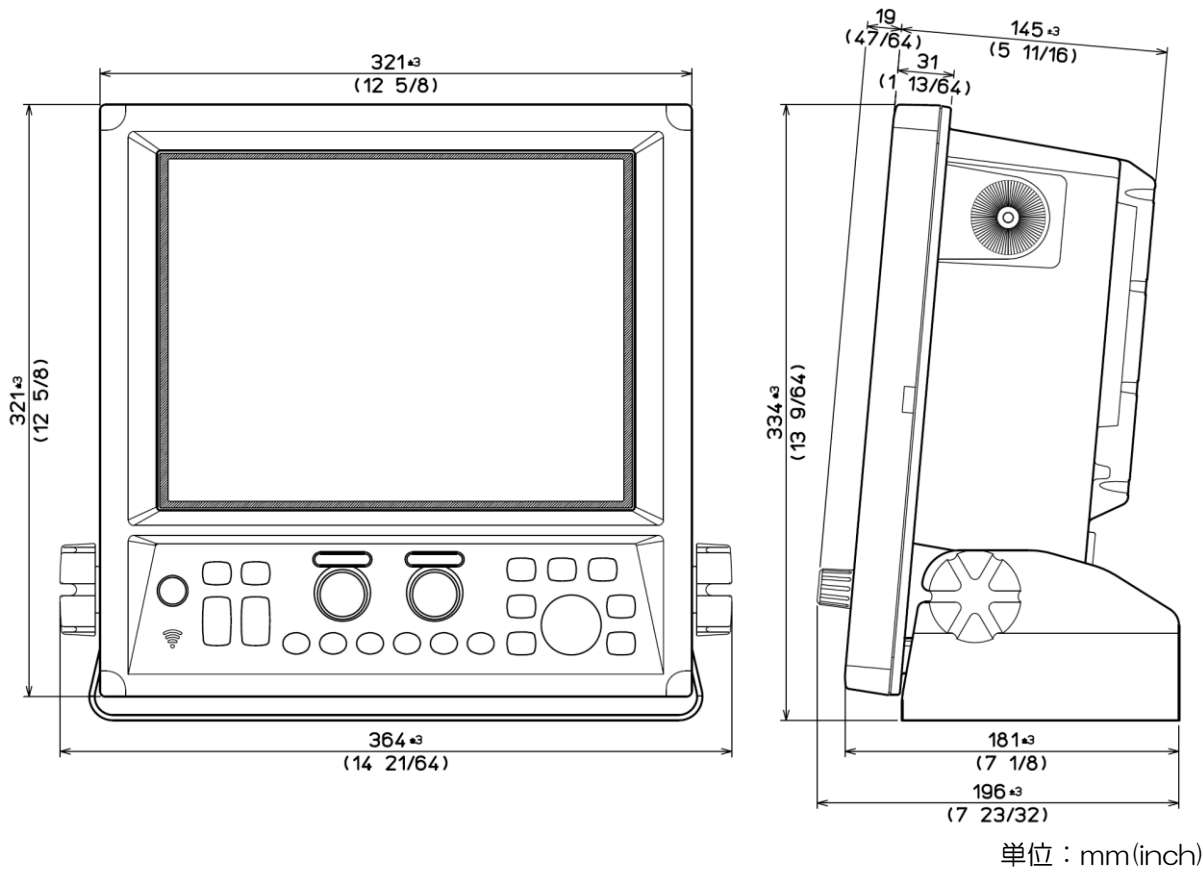
TDM-062 の周波数による指向角変化



オプション品リスト

No	項目名称	規格	備考	重 量 / 長さ
1	電源整流器	PS-010	ヒューズ(5A)2 個付	
2	AC 電源ケーブル	VV-2D8-3M	両端未処理	3m
3	送受波器延長ケーブル	C44-02	ケーブル構成は、TDM-052/ TDM-062 と同様（「送受波器の接 続」1-17 ページ参照）	発注時 に長さ を指定
4	アース線	OW7/1.6S-3M		3m
5	接続ケーブル	CW-372-5M	片端5P 防水コネクタ付き/ 片端未処理	5m
		CW-373-5M	両端6P 防水コネクタ付き	5m
		CW-374-5M	片端6P 防水コネクタ付き/ 片端6P コネクタ付き	5m
		CW-376-5M	片端6P 防水コネクタ付き/ 片端未処理	5m
		CW-410-5M	両端 6P 防水コネクタ付き/ シールド線片側のみ接続	5m
		CW-560-2M	両端 15P 防水コネクタ付き	2m
		CW-264A-2M	片端 12P 防水コネクタ付き/ φ3.5 ステレオジャック付き	2m
		CW-405-0.3M	CCD カメラ接続時の中継ケーブル	0.3m
6	外部モニターケーブル	CW-576-0.5M	外部モニター接続時の中継ケーブル	0.5m
7	コネクタ	BD-05BFFA-LL 6001	5P 防水コネクタ	
		BD-06BFFA-LL 6001	6P 防水コネクタ	
8	送信フィルター	ソウシンフィルター C29EHB004A	無線機もれ込み対策フィルター	
9	ジャンクションボックス	JB-34	送受波器用ケーブル/ 送受波器接続箱	

外觀圖



仕様

仕様項目	内容	
型式	CVS-FX1	
送受波器	TDM-052	TDM-062
送信周波数（送受波器）	38 ～ 75 kHz および 130-210 kHz	38 ～ 75 kHz および 85-135 kHz
送信周波数可変幅	24 ～ 240kHz 0.1kHzステップ	
送信方式	同時送信・交互送信	
送信発射回数	最大1500回/分（単周波、2.5mレンジ 干渉除去OFF）	
送信パルス幅	50 μs ～ 3.0 ms	
表示器サイズ および タイプ	12.1 インチカラーXGA液晶	
画素数	1024x 768 ドット（XGA）	
レンジ	1 ～ 3000 (m)、1 ～ 2000（ヒロ）（任意に8ヶ設定可能）	
拡大レンジ	1～260（m）、1～180（ヒロ）	
測深単位	m、ヒロ、ft、fm、l.fm	
シフト	最大 3000m、2000ヒロ	
シフト量	数値、レンジ割合1/5、登録値（8種）、桁入力値、レンジ対応値	
表示モード	高周波、低周波、1～4周波、拡大映像（海底固定拡大、海底底質拡大、海底部分拡大、部分拡大、海底追尾拡大）、Nav画面、左右分割、上下分割、合成 Aスコープは上記全てのモードに追加可能	
表示色	64色、16色、8色、モノクロ	
背景色	青、紺、濃紺、黒、白、夜間色、その他 4色	
警報	海底、魚群、水温*、船速**、到着***、コースずれ***	
映像送り速度	12速+停止	
その他機能	干渉除去、色消し、VRM、雑音抑圧、ホワイトライン、吃水補正、水温補正、船速補正、画像記憶（500面）、ソナトーン、ホーミング機能、位置記憶、イベント記憶、簡易プロッター、パネル照明、送信出力低減、外部同期、探知範囲表示、CMキー、水温グラフ表示、画面個別レンジ、画面個別シフト、ヒーピング補正	
オート機能	レンジ、シフト、TVG、送信出力、ホワイトライン	
機能キー登録	Aスコープ、シフト桁入力、干渉除去、色消し、雑音抑圧、ホワイトライン、背景色、TVG調整、VRM追従間隔、画像記憶呼出し、画面入替え、画面タイトル、ソナトーン出力、目的地航法開始周波数、イベントキー用途、キーロック、測深単位、色調、海底底質モード	
言語	中国語1、中国語2、英語、フランス語、ギリシャ語、イタリア語、日本語、韓国語、スペイン語、タイ語 他	
入力データ および センテンス	NMEA0183 Ver.1.5/2.0/3.0 GGA、GLL、HDT、MTW、MWV、MWD、RMC、VHW、VTG、ZDA	
出力データ および センテンス	NMEA0183 Ver2.0（DBTのみVer.1.5） DBT、DPT、GGA、GLL、HDT、MTW、MWV、RMC、TLL、VHW、VTG、ZDA	
NMEAポート数	2: 入出力	
電源電圧範囲	10.8 ～ 31.2 V DC	
消費電力	60 W以下（24V DC）	
環境条件		
使用温度範囲	-15℃ ～ +55℃	
防水性能	IPX5	
保存温度	-30℃ ～ +70℃	
上限湿度	93%±3%（+40℃において）	
外形寸法図（ノブ、架台なし）	321 × 321 × 145 mm	
外形寸法図（ノブ、架台付き）	334 × 364 × 181 mm	
重量	9.1 kg	

* 送受波器内蔵の水温センサー、または外部水温機器を接続

** 速度センサーかGPSセンサーを接続

*** GPSセンサーを接続

—このページは空白です—

第1章 設置

1. 1 取り付け上の注意事項

魚群探知機の性能を十分に発揮するために、本機の実取り付け作業は、当社公認の技術者によって実施されなければなりません。取り付け作業は以下の内容を含みます。

- (1) 構成品の開梱。
- (2) 構成ユニット、予備品、付属品、工事材料の検査。
- (3) 電源電圧、電流容量のチェック。
- (4) 取り付け位置の決定。
- (5) 表示機および送受波器の実取り付け。
- (6) 付属品の取り付け。
- (7) ケーブル敷設および接続についての計画と実行。
- (8) 取り付け完了後の調整。

1.1.1 構成品の開梱

構成品を開梱し、すべての品目が機器構成リストの内容と一致することを確認します。内容に不一致があった場合は購入先の販売店、または当社営業所へご連絡ください。

1.1.2 構成品、付属品の検査

各構成品、付属品の外観を検査し、へこみ、破損などが無いか、チェックします。

万一、へこみや損傷があり輸送中の事故と判断される場合は、輸送会社に連絡すると共に、購入先の販売店、または当社営業所へご相談ください。

1.1.3 設置場所の選定

機器の性能を十分に発揮するには、以下の点を考慮して設置してください。

- (1) 画面が見やすい位置を選びます。
- (2) 保守空間を確保してください。特に、ケーブルが集中する背面パネルには、十分な空間が必要です。
- (3) 無線装置からできるだけ離れた位置を選びます。

1.1.4 ケーブルの敷設と接続

- (1) 送受波器および電源ケーブルは、他の電子装置類のケーブルからできるだけ離してください。
- (2) 表示機筐体は背面パネルのアース端子を利用して船体に確実に接地します。

⚠ 注意：本機の電源入力GND側は、GND端子と接続されています。
+アースの場合は、使用できません。電源が短絡する可能性があります。

- (3) 電源ケーブルは、バッテリーから直接配線する方が他の電子装置からの干渉を受けにくくなります。
(図 1.1 参照)

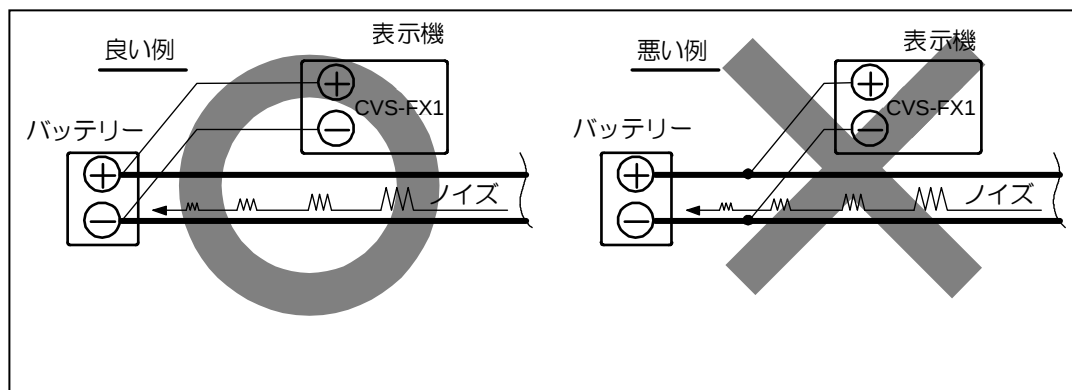


図 1.1 電源ラインの接続方法

1.1.5 取り付け後の確認

必ず、本機を起動する前に、下記の項目を確認してください。機器が正常に動作するために必要です。

- (1) 船内電源電圧は、適切な電圧範囲にあるか？
(電圧範囲：電源コネクタ入力部で測定して 10.8～31.2VDC)
- (2) 電流容量は十分か？ (消費電力：60W)
- (3) 送受波器ケーブルの配線は、正常か？ ショート等はないか？

1. 2 送受信表示機の設置

表示機の設置方法は、卓上設置、またはフラッシュマウント設置が可能です。
取り付けは以下の手順で行ってください。

1.2.1 卓上設置

- (1) 図 1.3 の保守空間を設けて、表示機を取り付ける位置を決定してください。
- (2) 表示機を取り付ける位置に取付架台を置き、5本の5mmネジで固定してください。
- (3) 表示機を取付架台に乗せ、ワッシャーとノブボルトで固定してください。

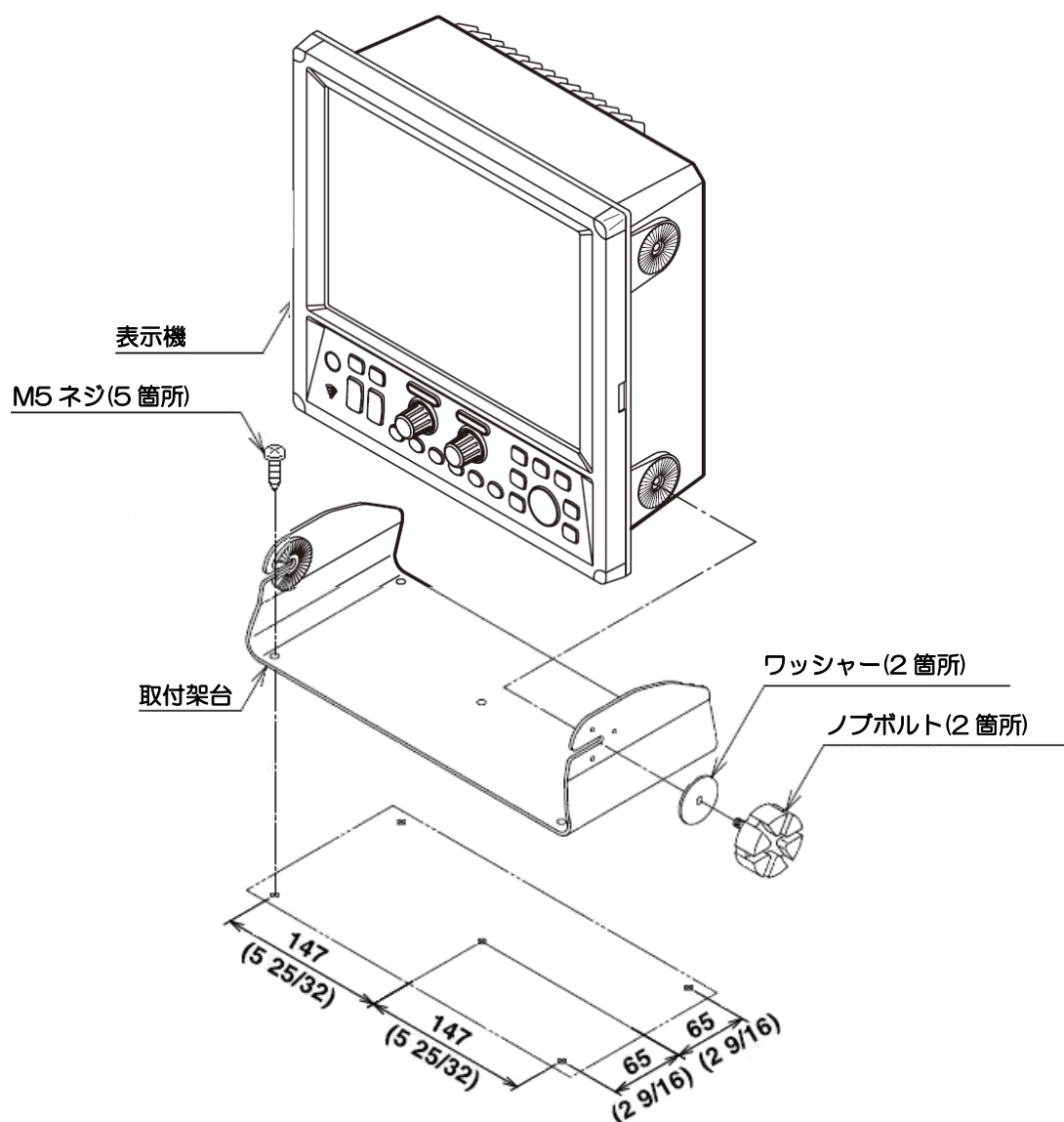


図 1.2 卓上取付図

単位：mm (inch)

⚠ 注意：卓上設置をする場合は、下図のような保守空間を設けてください。

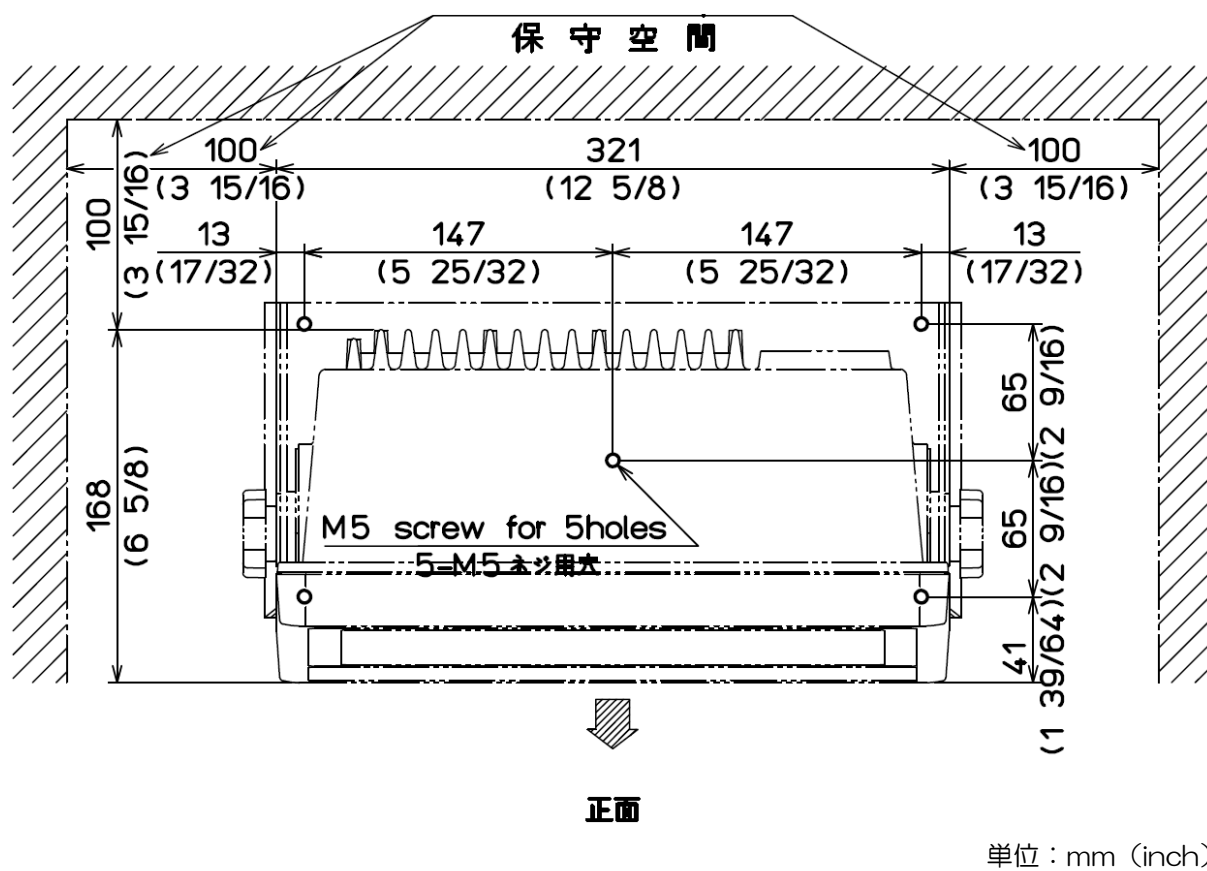


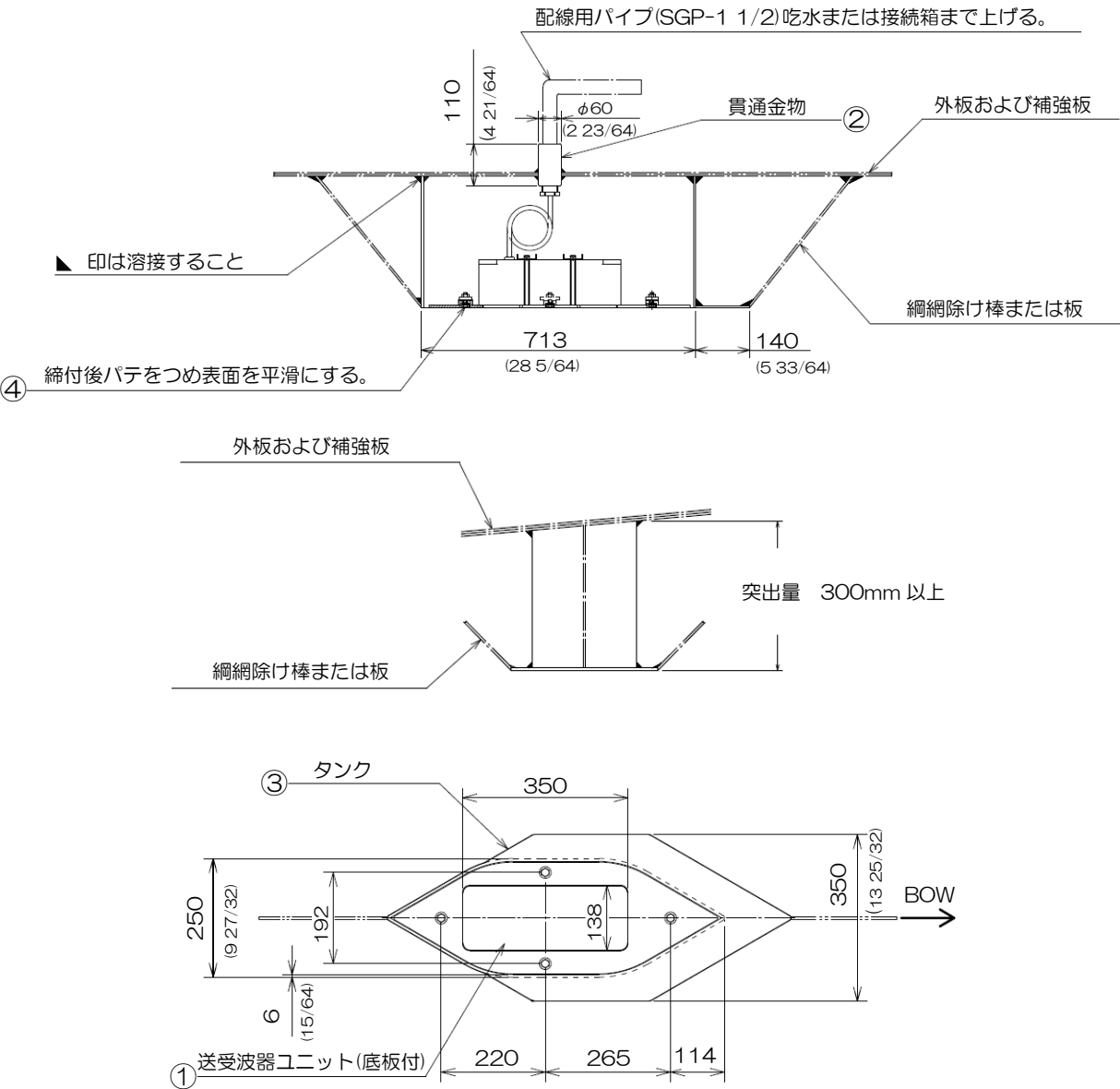
図 1.3 保守空間

1. 3 送受波器の取り付け

1.3.1 船底装備の場合

1) 鋼船の場合

下図に基づき、造船所にて送受波器の取り付けを行ってください。



単位 : mm (inch)

図 1.6 鋼船の送受波器取り付け図

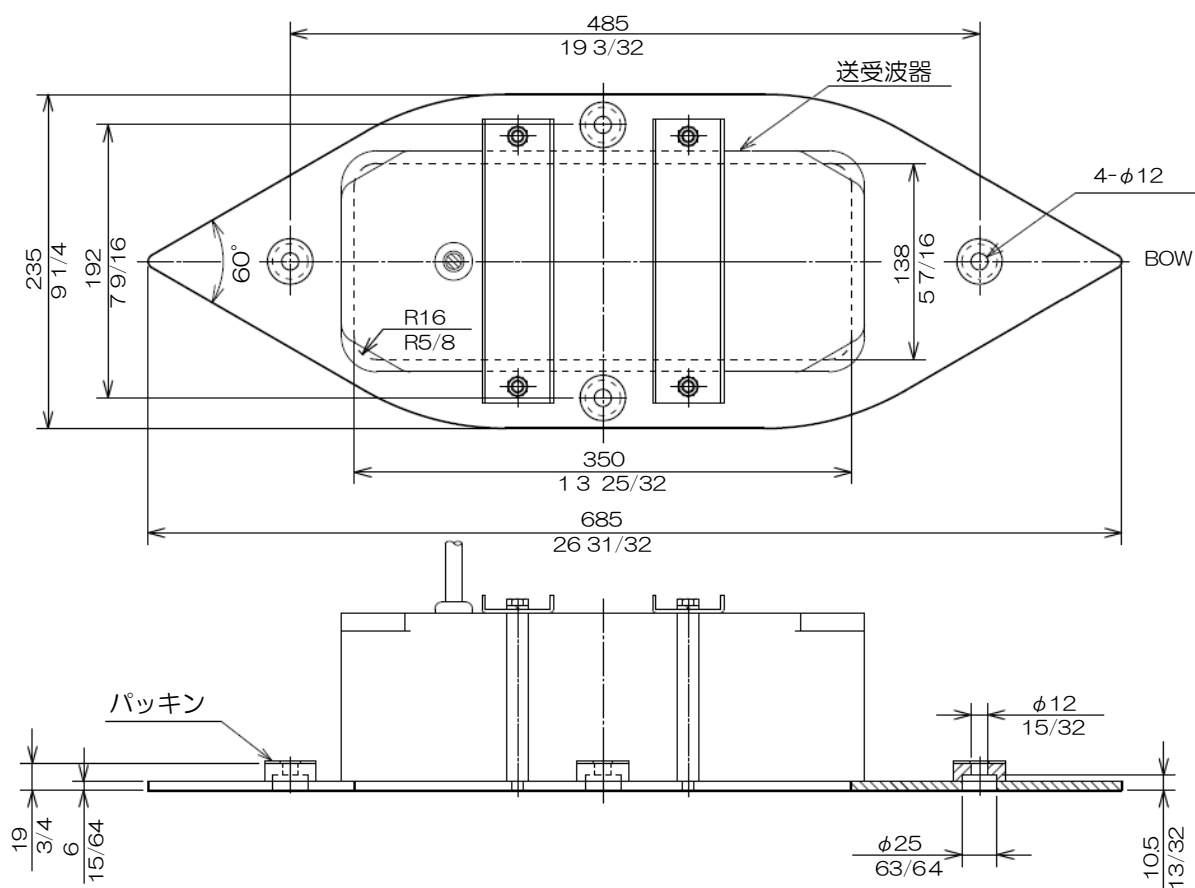
鋼船用 送受波器装備備品表

番号	名称	材質	数量	備考
①	送受波器ユニット(底板付)		1	造船所手配
②	貫通金物(CG-1)	SS400B	1	
③	タンク	SS400P	1	
④	取付ボルト類	SUS304	4	

装備上の注意点

- ⚠ 注意：** 1. 配線用パイプ、綱索除棒など破線部分は造船所で詳細を定め工事して下さい。
 2. 突出量は、なるべく多い方が性能上良好です。
 泡の影響を受けにくくなります。

送受波器ユニットの外観寸法図の詳細は以下のとおりです。



単位：mm (inch)

図 1.7 鋼船の送受波器ユニットの外観図

2) 鋼船の場合（残響対策用）

下図に基づき、造船所にて送受波器の取り付けを行ってください。

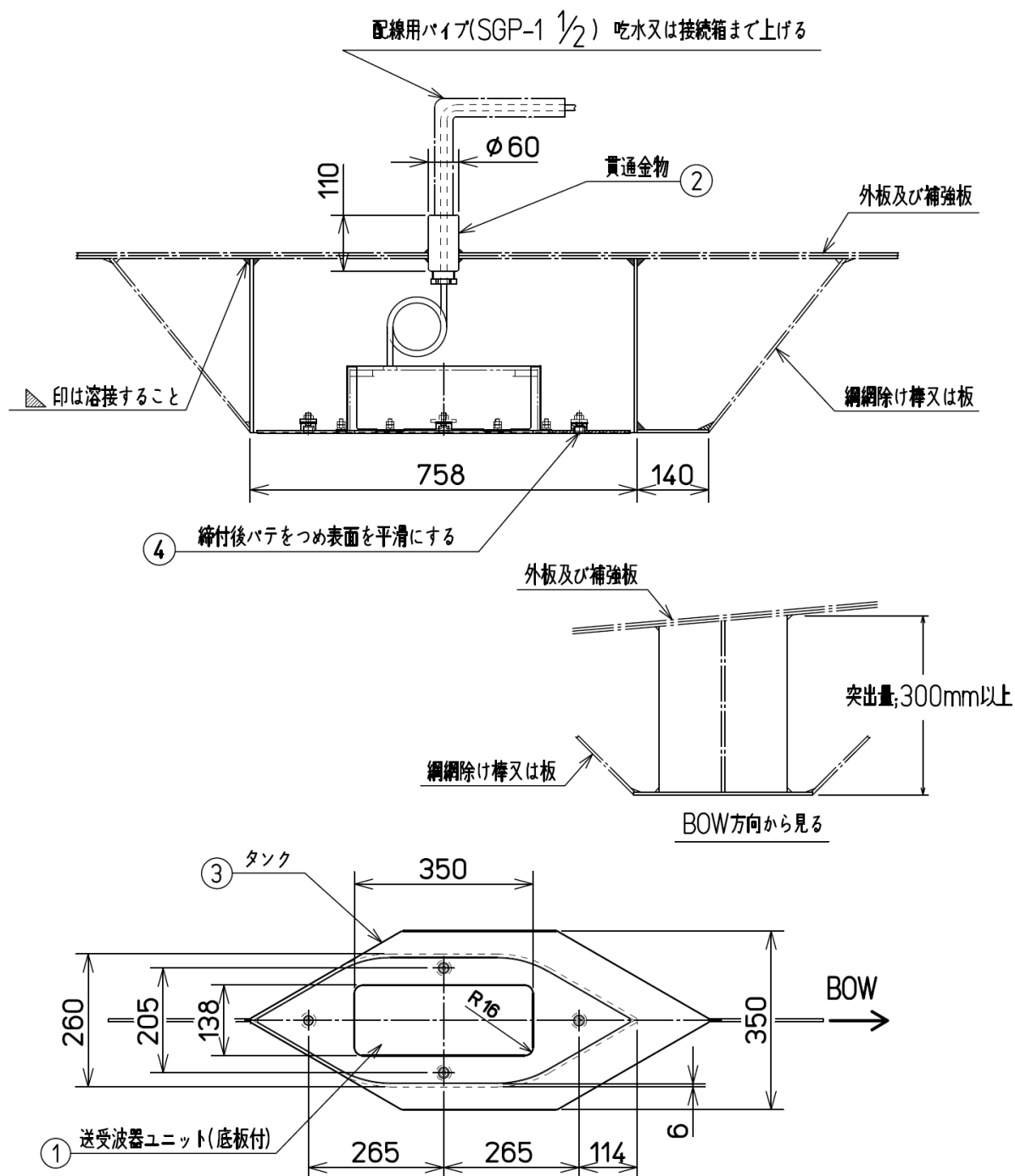


図 1.8 鋼船の送受波器取り付け図（残響対策用）

単位：mm

鋼船用 送受波器裝備備品表（残響対策用）

番号	名 称	材 質	数 量	備 考
①	送受波器ユニット(底板付)	(SUS304)	1	光電製作所手配
②	貫通金物(CG-1)	SS400B	1	
③	タンク	SS400P	1	造船所御手配
④	取付ボルト類	SUS304	4	

装備上の注意点（残響対策用）

- ⚠ 注意： 1. 配線用パイプ、綱索除棒など破線部分は造船所で詳細を定め工事して下さい。
 2. 突出量は、なるべく多い方が性能上良好です。
 泡の影響を受けにくくなります。

送受波器ユニットの外観寸法図の詳細は以下のとおりです。

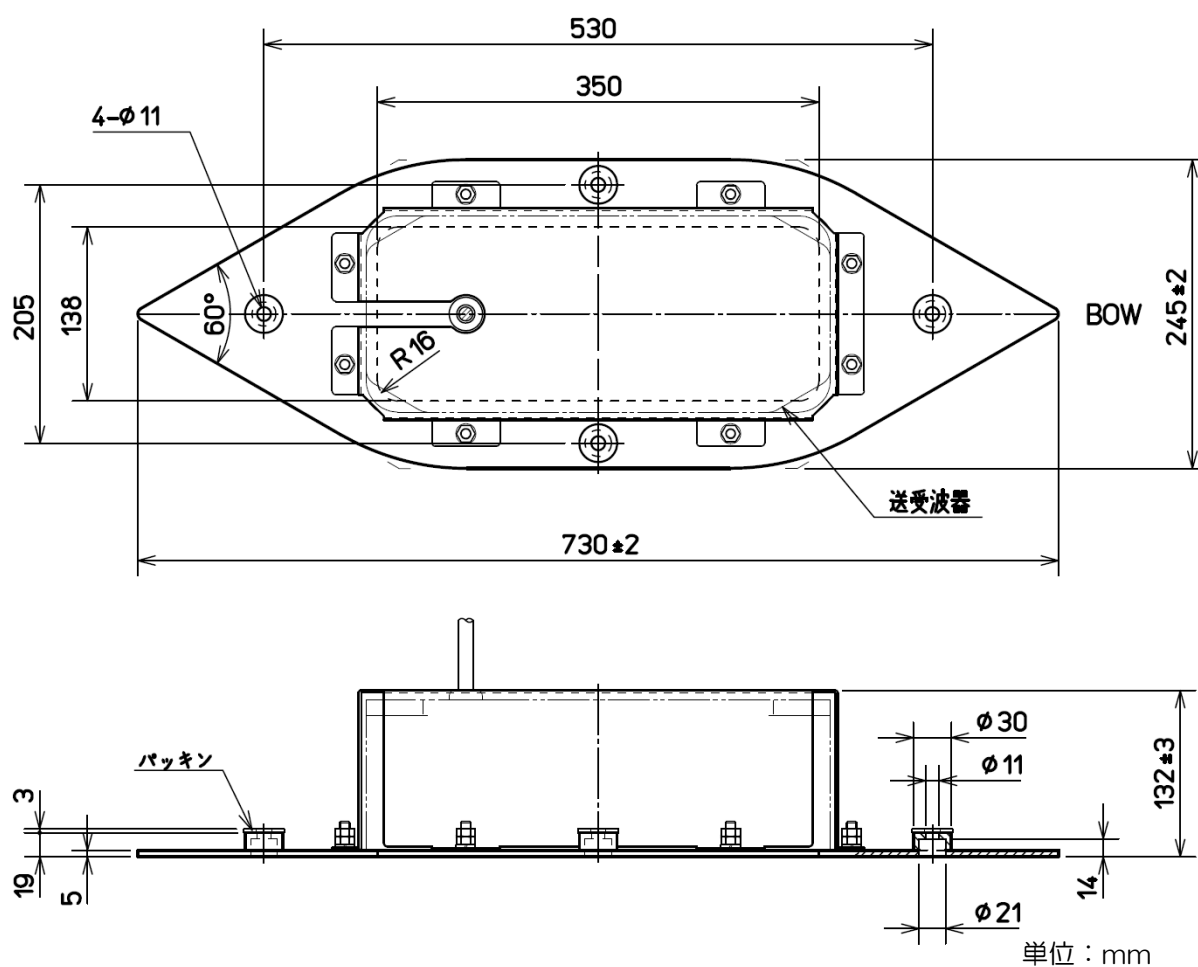
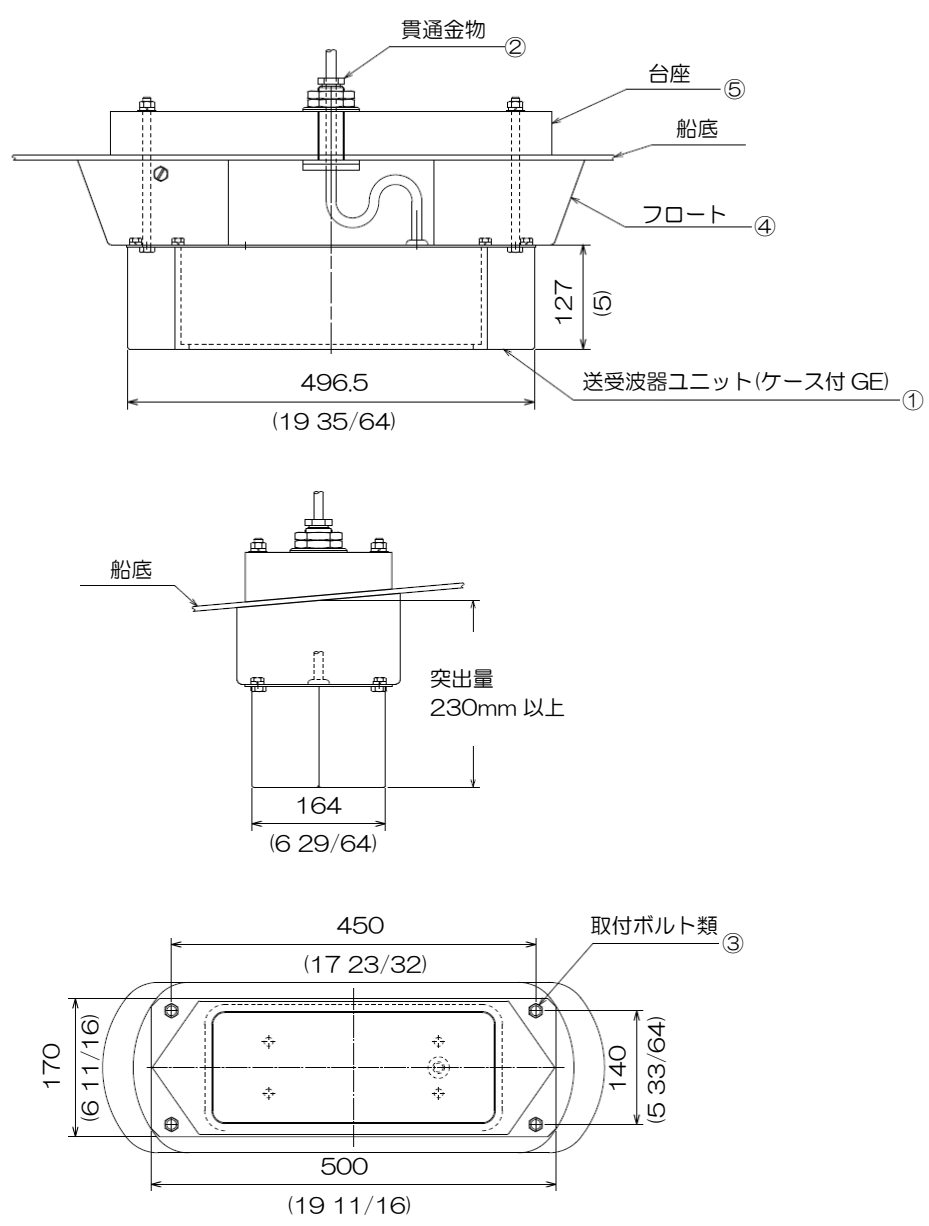


図 1.9 鋼船の送受波器ユニットの外観図（残響対策用）

3) FRP および木船の場合

下図に基づき、造船所にて送受波器の取り付けを行ってください。



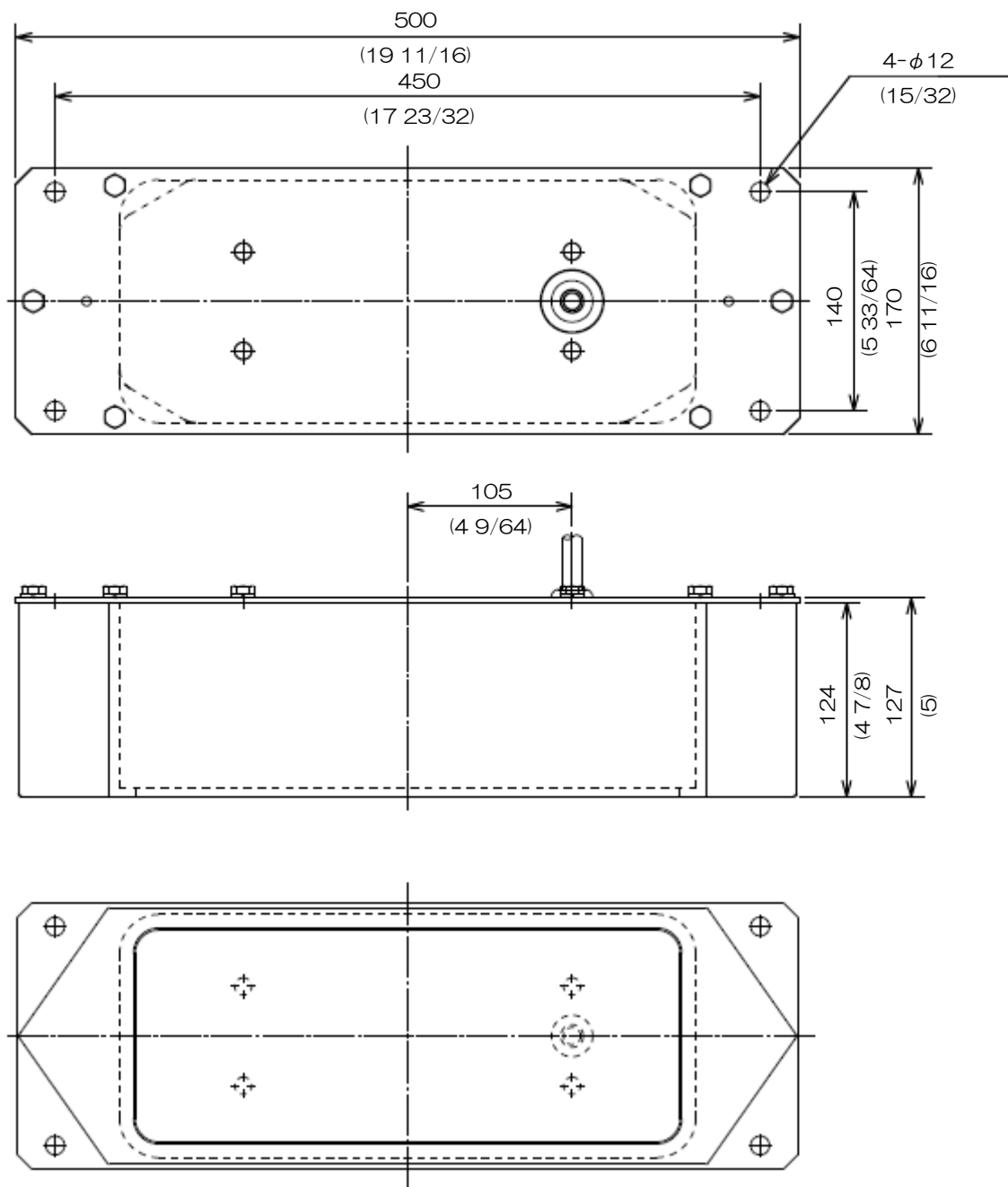
単位：mm (inch)

図 1.10 送受波器取り付け図

FRP および木船用 送受波器装備品表

番号	名称	数量	備考
①	送受波器ユニット(ケース付 GE)	1	光電製作所手配
②	貫通金物(CG-16)	1	
③	取付ボルト類	4	造船所手配
④	フロート	1	
⑤	台座	1	

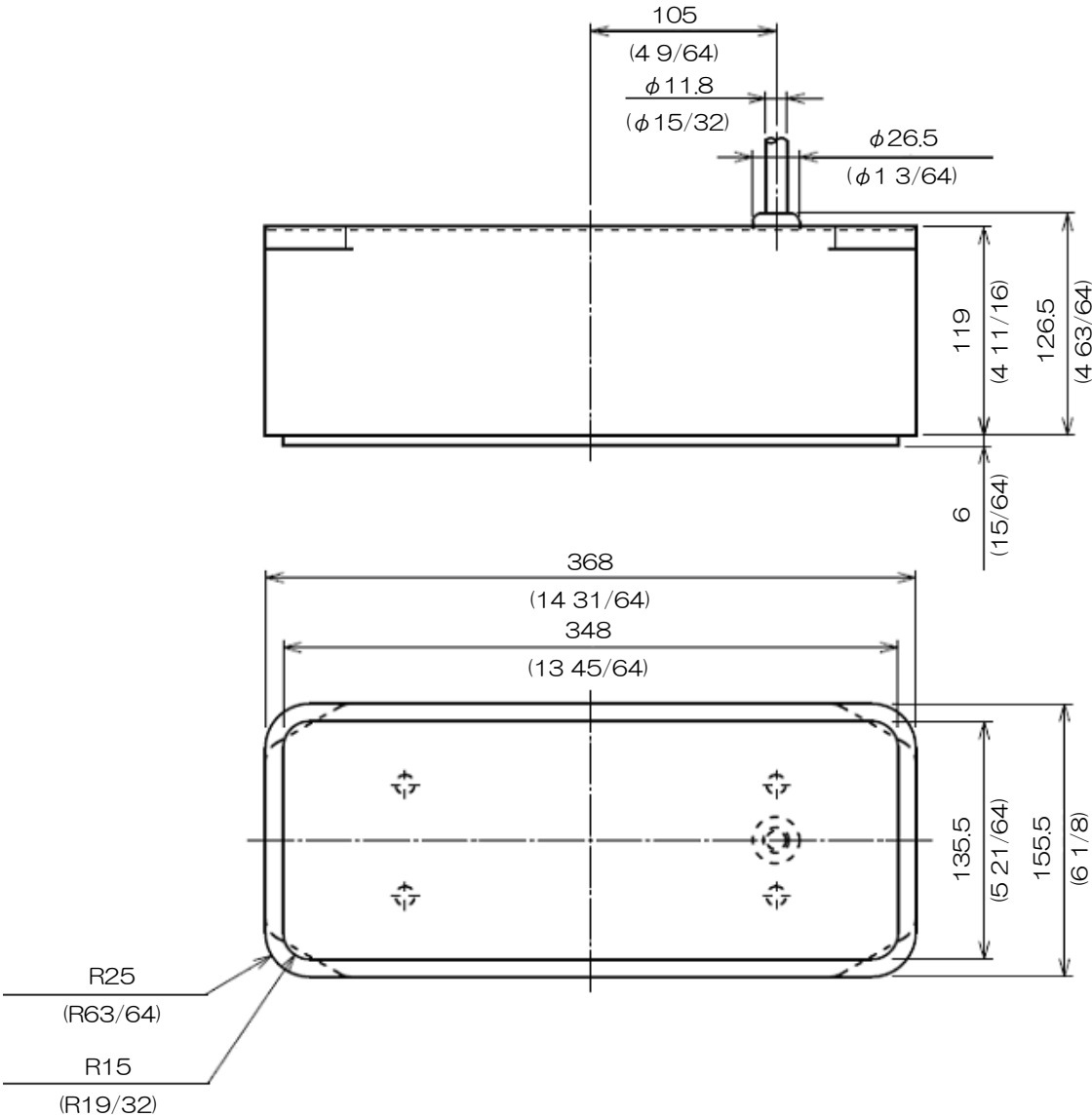
送受波器ユニットの外観寸法図の詳細は以下のとおりです。



単位：mm (inch)

図 1.11 FRP 船および木船のユニットの外観図

・送受波器（TDM-052、TDM-062）の外形寸法図および仕様



単位：mm (inch)

図 1.12 送受波器（TDM-052、TDM-062）の外形寸法図

送受波器（TDM-052、TDM-062）の仕様

ケーブル長 / Cable length		15M (590 35/64)
重量 / Weight	TDM-052	11.0kg (24.5lb)
	TDM-062	11.4kg (25.2lb)
素材 / Material	ゴムモールド (Polyurethane)	

- !** 注意：1. 送受波器にある 4 つの穴は補助用の穴です。使用の際には仮止めとして利用してください。この穴には、送受波器の重さを支える強度がありません。もし、送受波器を取り付けるメインの穴として使った場合には、送受波器が外れる恐れがあります。
2. 送受波器は空中で送信しないでください。空中で送信した場合、内部素子の破損の恐れがあります。

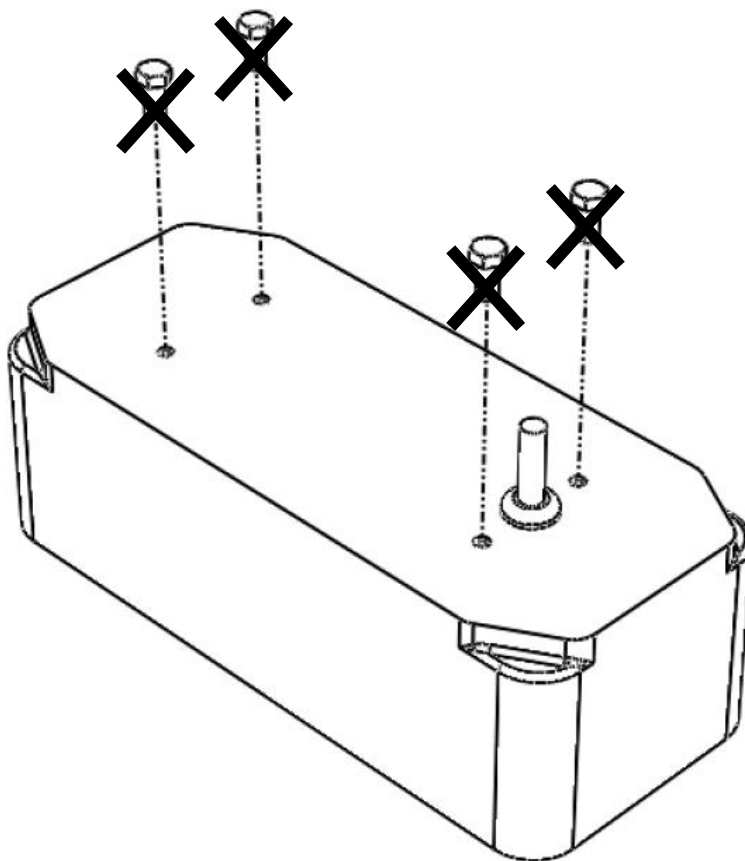


図 1.13 送受波器（TDM-052、TDM-062）装備上の注意

1. 4 結線

1.4.1 表示機へのケーブル接続

電源ケーブルと送受波器を、表示機の所定のコネクタに接続します。

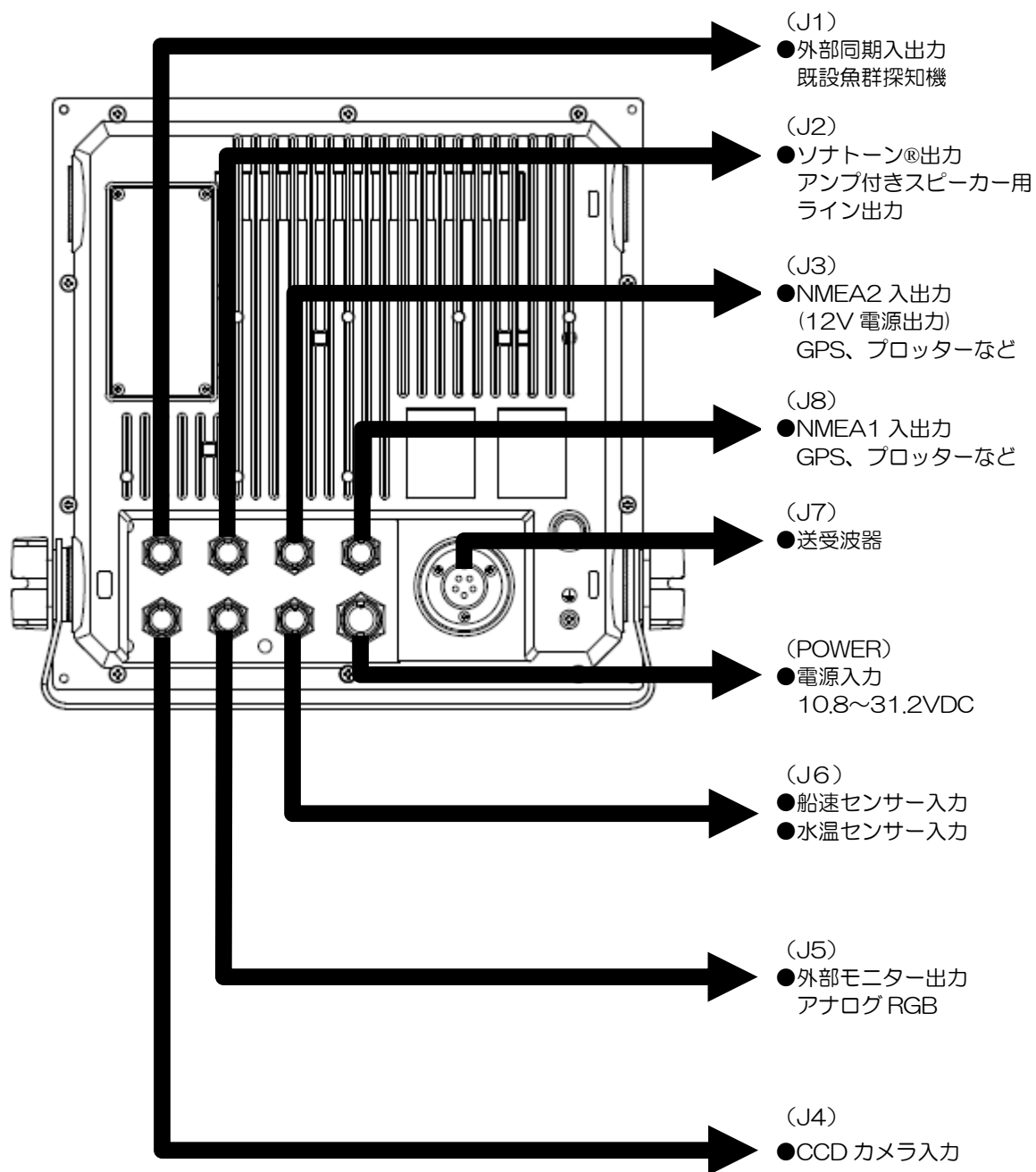
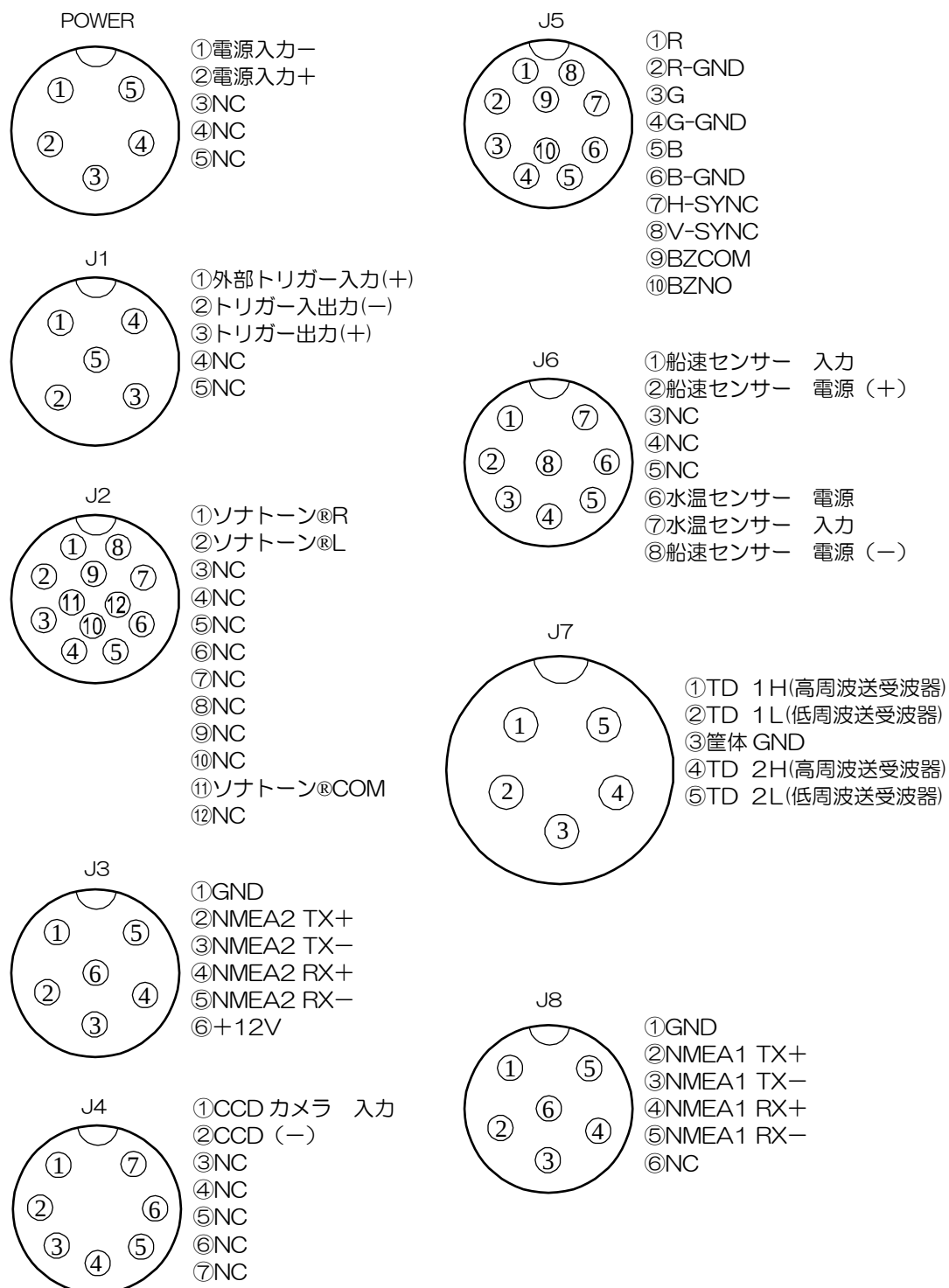


図 1.14 ケーブル接続図

背面コネクターのピン配置

表示機の背面から見たピン配置です。



⚠ 注意：各線は、船体アースに接続しないようにしてください。

図 1.15 背面コネクタピン配置図

電源ケーブルの接続 (CW-270-2M)

表示機背面の「POWER」コネクタに電源ケーブルを接続します。

DC 電源ケーブルの接続 (CW-270-2M)

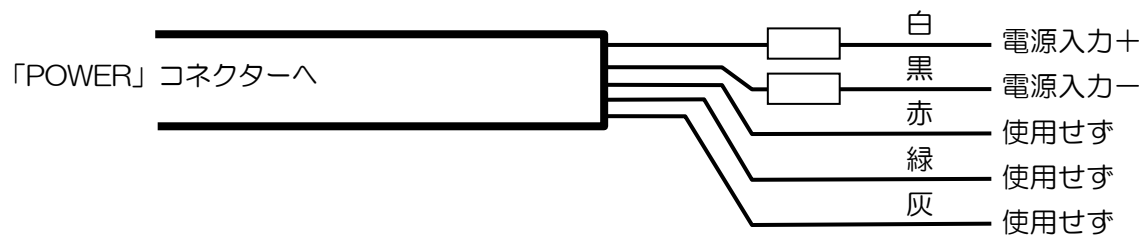


図 1.16 DC 電源ケーブルの接続図

⚠ 注意：使用しないリード線は、芯線同士が接触しないようテープ等を巻いて絶縁処理をしてください。

⚠ 注意：「POWER」コネクタの接続は船内電源を切ってから行ってください。

送受波器(TDM-052/TDM-062/TDM-041/TDM-091)の接続

CVS-FX1 と送受波器を接続する場合

- 1) 送受波器接続表を参照し、接続する送受波器を CW-836-3M および CW-844-3M に半田付けします。半田付け後、接続部を自己融着テープ等で防水および絶縁処理をしてください。
- 2) 処理が終了した CW-836-3M は、CVS-FX1 の J7 コネクターに接続してください。
処理が終了した CW-844-3M は、CVS-FX1 の J6 コネクターに接続してください。

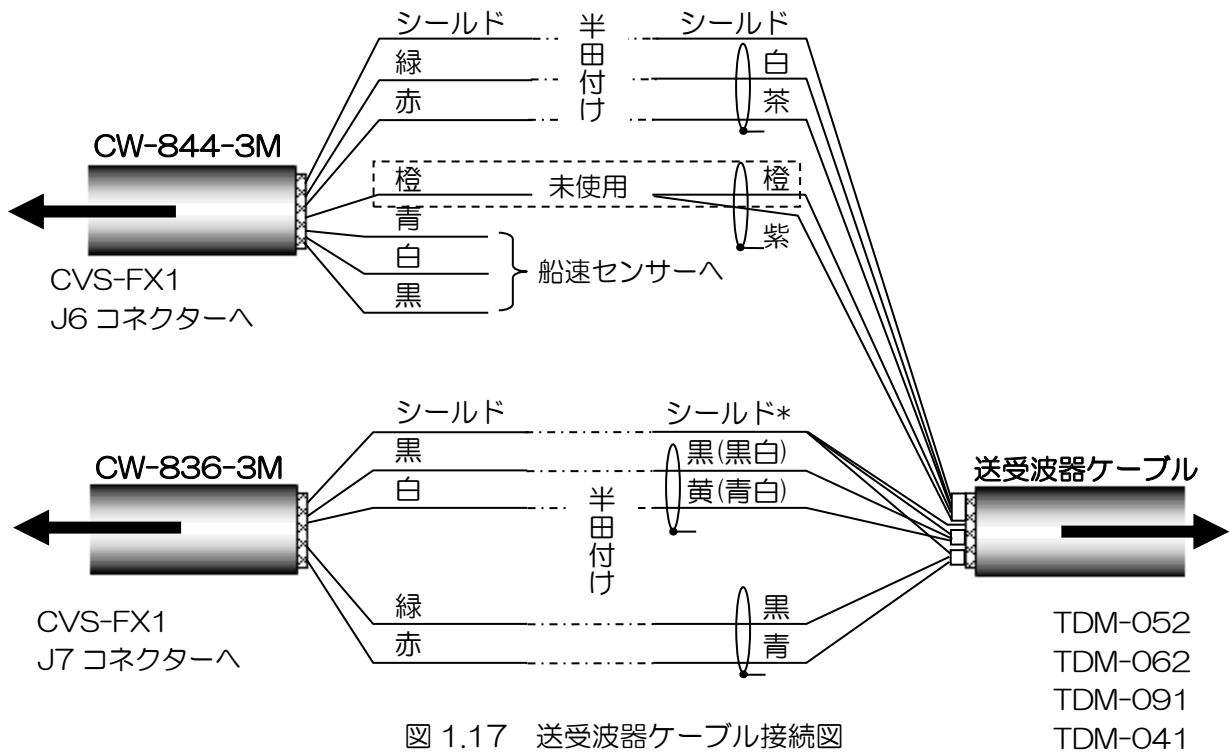


図 1.17 送受波器ケーブル接続図

送受波器接続表

接続先コネクター		CW-836-3M 接続先コネクター J7		CW-844-3M 接続先コネクター J6		送受波器 ケーブル	備考
番号	J6	ケーブル色	信号名	ケーブル色	信号名	ケーブル色	
4	シールド	-	-	シールド	シールド	シールド	水温 センサー
6	緑/水温センサー電源	-	-	緑	水温センサー	白	
7	赤/水温センサー入力	-	-	赤	水温センサー	茶	
3	橙/NC	-	-	橙	-	橙、紫	未使用
1	青/船速センサー入力	-	-	青	-	-	船速 センサー
2	白/船速センサー電源(+)	-	-	白	-	-	
8	黒/船速センサー電源(-)	-	-	黒	-	-	
番号	J7						
3	シールド	シールド	筐体 GND	-	-	シールド*	低周波
5	黒/TD2L(低周波送受波器)	黒	TD2L	-	-	黒(黒白)**	
2	白/TD1L(低周波送受波器)	白	TD1L	-	-	黄(青白)**	
4	緑/TD2H(高周波送受波器)	緑	TD2H	-	-	黒	高周波
1	赤/TD1H(高周波送受波器)	赤	TD1H	-	-	青	

 注意：使用しないリード線は、芯線同士が接触しないようテープ等を巻いて絶縁処理をしてください。

*CW-836-3M のシールドと接続される送受波器シールドは、外層シールド、低周波シールド、高周波シールドの 3 束を 1 束にまとめて接続してください。

**送受波器ケーブルの低周波には(黒・黄)、(黒白・青白)の 2 種類の線色の組み合わせが存在します。ケーブルは、それぞれ対応する CW-836-3M のケーブルと半田付けを行ってください。

ジャンクションボックス(JB-34)(オプション)を介して送受波器と接続する場合
1) CVS-FX1 とジャンクションボックス (JB-34) に接続されているケーブルを繋ぎます。

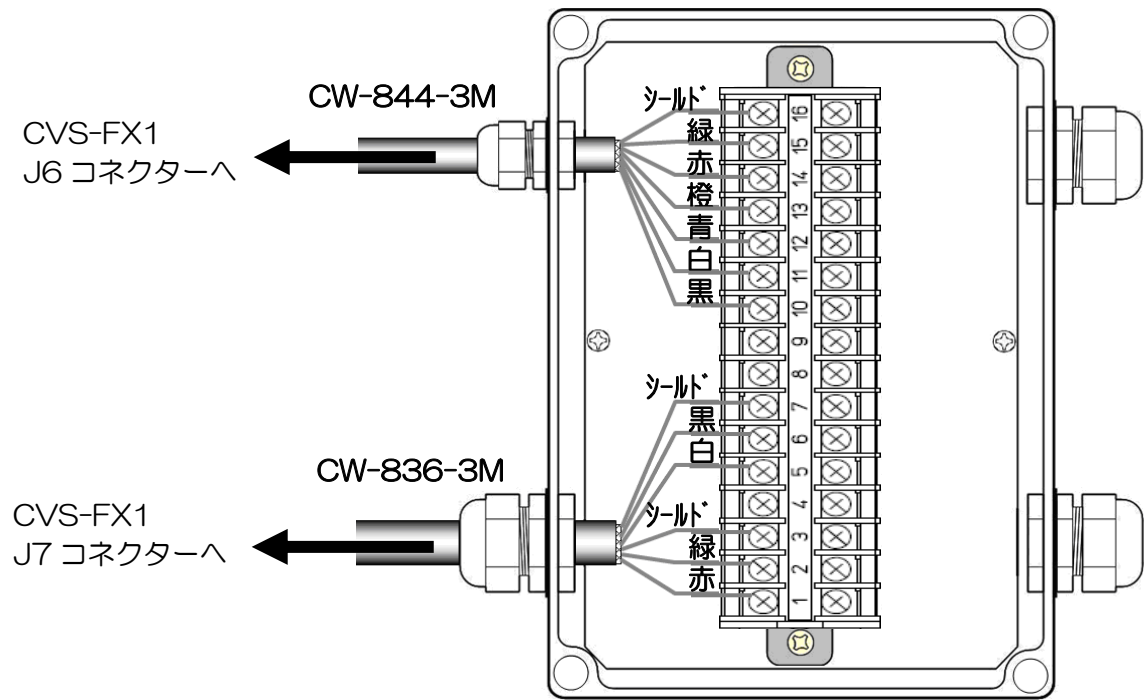


図 1.18 CVS-FX1-ジャンクションボックス接続図

ジャンクションボックス (JB-34) 接続表

ジャンクションボックス (JB-34)		ケーブル		CVS-FX1		
ピン番号	信号名	ケーブル色	ケーブル名	接続コネクタ		
1	TD1H	赤	CW-836-3M	J7 (5 ピン)	1	赤/TD1H(高周波送受波器)
2	TD2H	緑			4	緑/TD2H(高周波送受波器)
3	GND	シールド			3	シールド
4	-	-			-	-
5	TD1L	白			2	白/TD1L(低周波送受波器)
6	TD2L	黒			5	黒/TD2L(低周波送受波器)
7	GND	シールド			-	-
8	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-
10	船速センサー電源(-)	黒	CW-844-3M	J6 (8ピン)	8	黒/船速センサー電源(-)
11	船速センサー電源(+)	白			2	白/船速センサー電源(+)
12	船速センサー入力	青			1	青/船速センサー入力
13	-	橙			3	橙/NC
14	水温センサー(+)	赤			7	赤/水温センサー入力
15	水温センサー(電源)	緑			6	緑/水温センサー電源
16	シールド	シールド			4	シールド

2) 送受波器とジャンクションボックス (JB-34) を接続する。

送受波器のケーブルは図 1.19 のように構成されています。

図 1.20 を参照し、ケーブルをジャンクションボックス (JB-34) に接続してください。

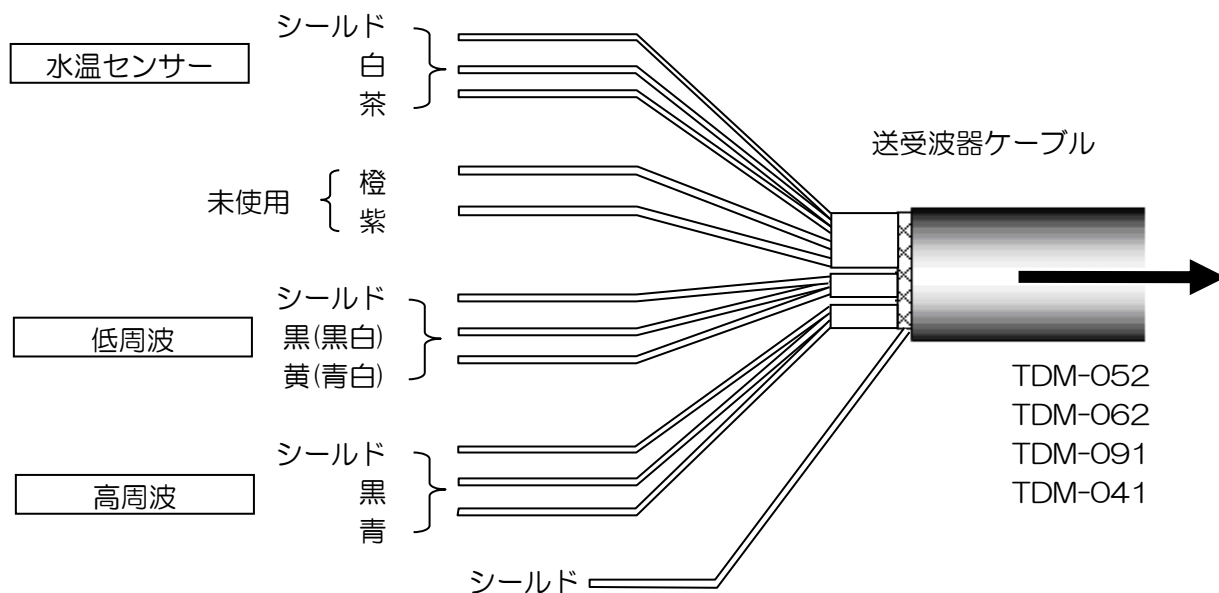


図 1.19 送受波器ケーブル詳細図

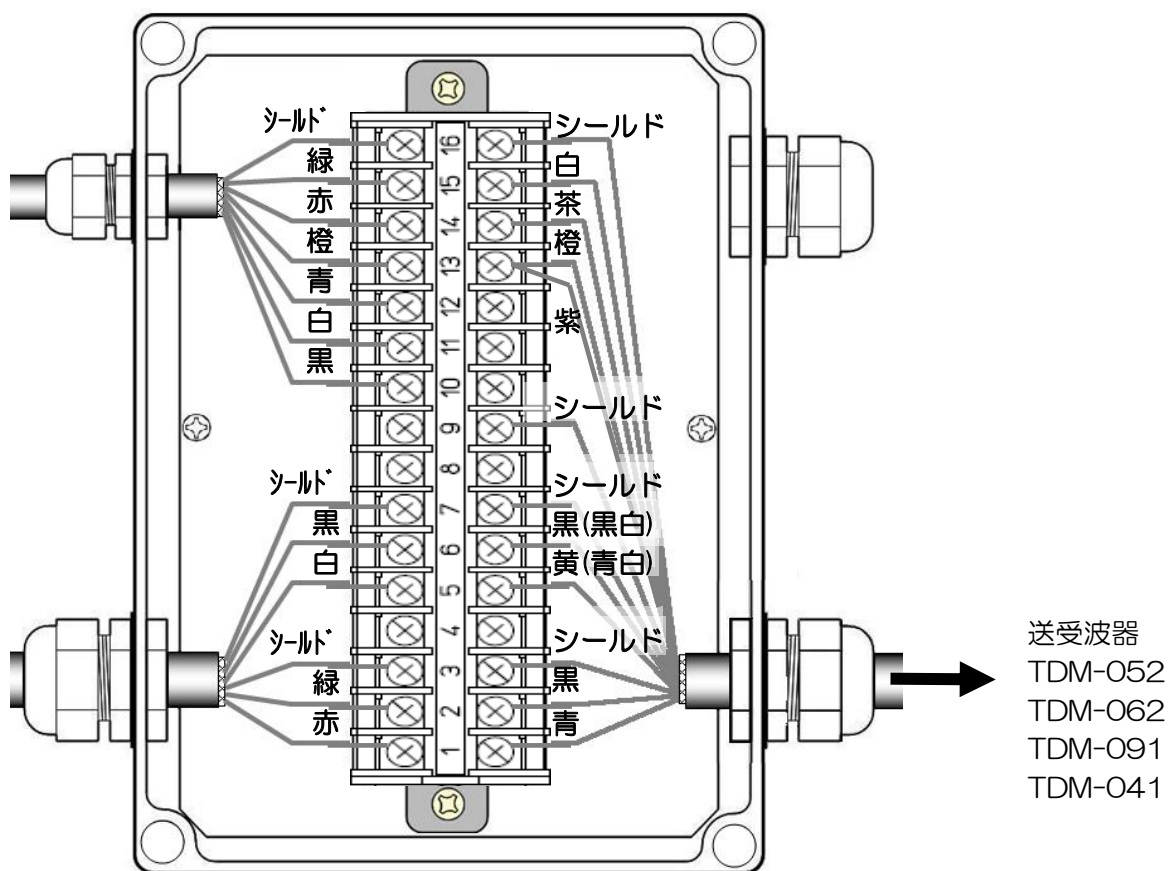


図 1.20 ジャンクションボックス-送受波器接続図

送受波器接続表

CVS-FX1			ジャンクションボックス(JB-34)		送受波器	
	番号	接続先	ピン番号	接続先信号名	ケーブル色	備考
J7	1	赤/TD1H(高周波送受波器)	1	TD1H	青	高周波
	4	緑/TD2H(高周波送受波器)	2	TD2H	黒	
	3	シールド	3	GND	シールド	
	-	-	4	-	-	
	2	白/TD1L(低周波送受波器)	5	TD1L	黄(青白)*	低周波
	5	黒/TD2L(低周波送受波器)	6	TD2L	黒(黒白)*	
	3	-	7	GND	シールド	
	-	-	8	-	-	
-	-	-	9	-	シールド	シールド
J6	8	黒/船速センサー電源(-)	10	船速センサー電源(-)	-	船速センサー
	2	白/船速センサー電源(+)	11	船速センサー電源(+)	-	
	1	青/船速センサー入力	12	船速センサー入力	-	
	3	橙/NC	13	-	橙	-
	7	赤/水温センサー入力	14	水温センサー(+)	茶	水温センサー
	6	緑/水温センサー電源	15	水温センサー(電源)	白	
	4	シールド	16	シールド	シールド	

*低周波には（黄、黒）、（青白、黒白）の 2 種類の線色の組み合わせが存在します。ケーブルはそれぞれ対応するピン番号と接続してください。

外部魚群探知機との接続

外部魚探と本機の送信周波数が同じか接近しているとき、相互に干渉することがあります。本機の送信を外部魚探のトリガーと同期して行うことにより干渉を低減することができます。結線については下表を参照してください。

コネクタ	ピン	備考
J1	①	外部トリガー入力 (+)
	②	トリガー入出力 (-)
	③	トリガー出力 (+)
	④	NC
	⑤	NC

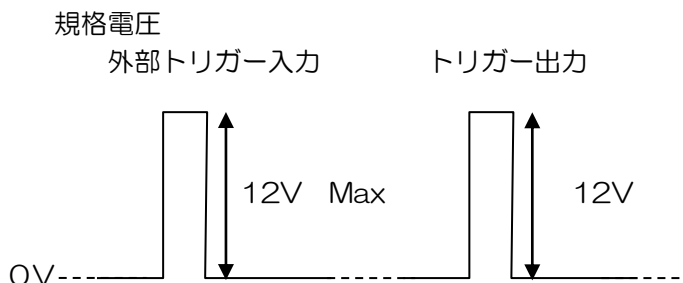


図 1.21 外部魚探トリガー図

航法機器との接続 (J3、J8)

本機から外部航法機器に NMEA データを出力したり、外部航法機器から本機へ NMEA データを入力したりできます。結線については下表を参照してください。

コネクタ	ピン	備考
J3	①	GND
	②	NMEA TX+
	③	NMEA TX-
	④	NMEA RX+
	⑤	NMEA RX-
	⑥	+12V

コネクタ	ピン	備考
J8	①	GND
	②	NMEA TX+
	③	NMEA TX-
	④	NMEA RX+
	⑤	NMEA RX-
	⑥	NC

ソナトーン®用外部スピーカーの接続 (J2) 【お客様手配】

接続ケーブル、CW-264A-2M にはφ3.5 ステレオジャックがついています。外部にアンプ付きのスピーカーを接続することによって、ソナトーン® (ソナー音) を聞きやすくなります。なお、スピーカーの音量はスピーカーについているアンプで調整してください。

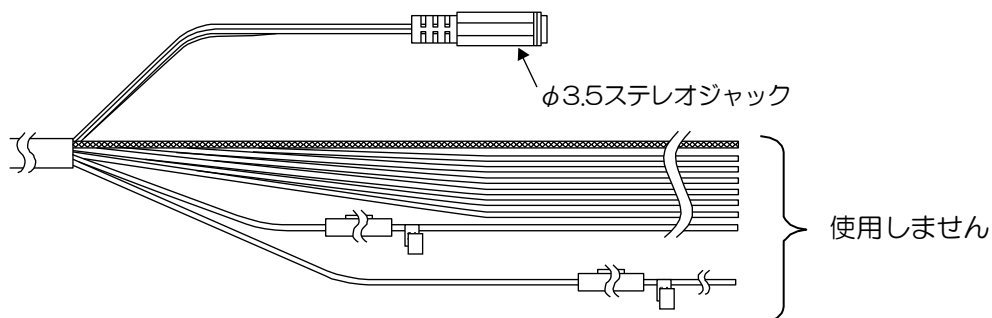


図 1.22 ソナトーン®用外部スピーカー接続図

外部モニターの接続（J5）【お客様手配】

外部モニター（VGA モニター、アナログ RGB 入力）を取り付ける場合は、CW-576-0.5M を介して接続します。結線については下図を参照してください。

CW-576-0.5M の構造

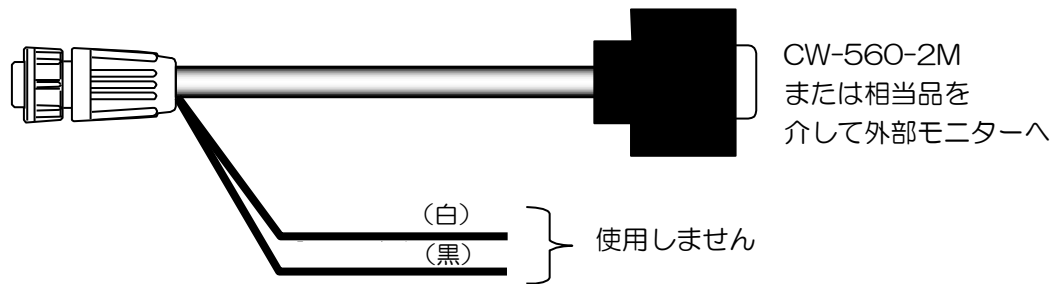


図 1.23 外部モニター接続図

CCD カメラの接続（J4）【お客様手配】

本機と CCD カメラ（NTSC/PAL/SECAM）を CW-405-0.3M(オプション)で接続できます。お手持ちの CCD カメラのビデオ出力端子（RCA プラグ（黄色の場合が多い））と接続してください。RCA 端子の接続部は自己融着テープ等で防水処理をしてください。接続方法は下表を参照してください。

コネクター	ピン	備考
J4	①	CCD カメラ 入力
	②	CCD (－)
	③	NC
	④	NC
	⑤	NC
	⑥	NC
	⑦	NC

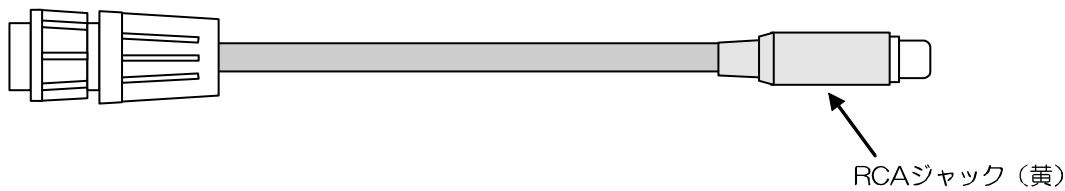


図 1.24 CCD カメラ接続図

1. 5 CVS-FX1 と Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の接続

Hemisphere V102 GPS Compass または ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass を GPS コンパスと、ヒーピングセンサーとして用いる場合の接続方法を説明します。

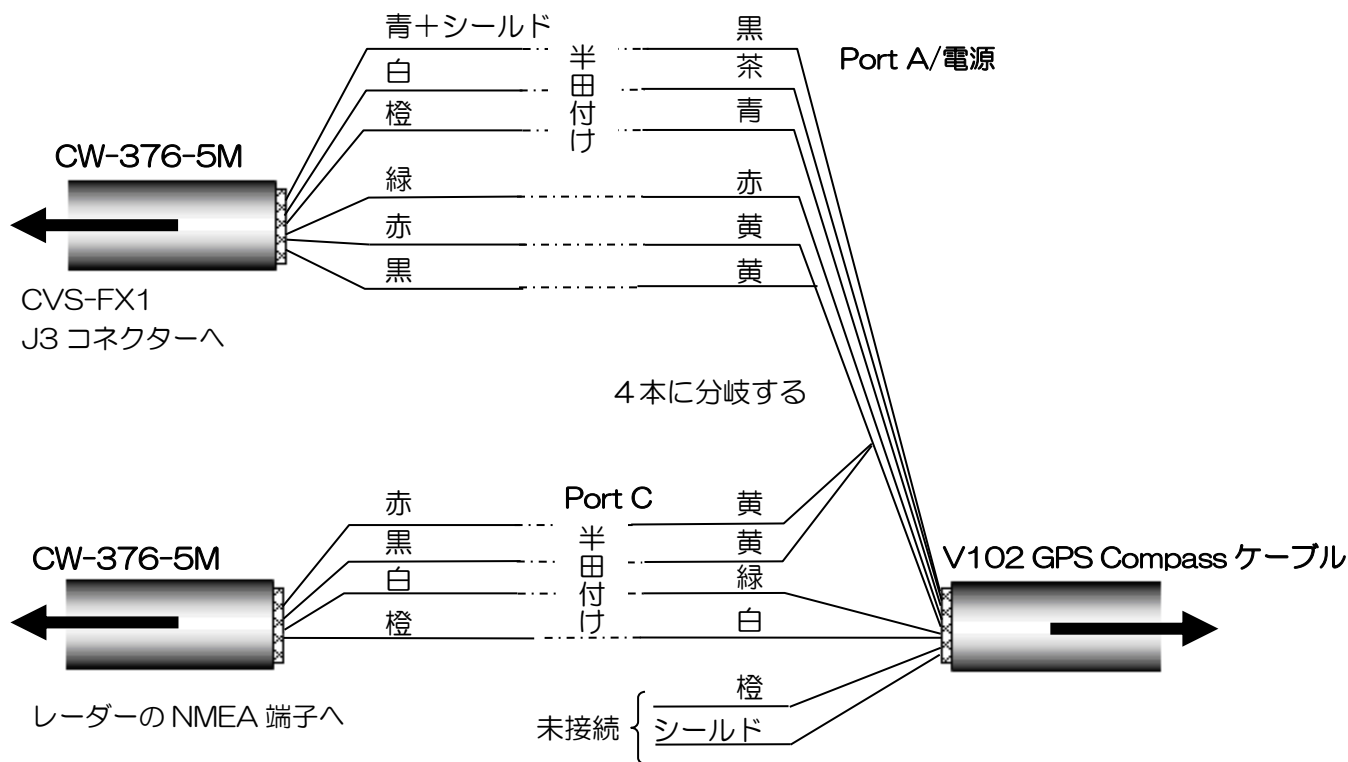
Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の設置については各取扱説明書に従ってください。

1.5.1 Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の接続

Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass のケーブルに CW-376-5M を半田付けします（以下 V102 GPS Compass と記します）。GPS コンパスとしてレーダーにも接続する場合には CW-376-5M を 2 本用意してください。

- 1) V102 GPS Compass のケーブルの端末は未処理の状態です。8本のリード線と1本のシールド線がむき出しになっています。このうち、茶と青のリード線が Port A の送受信、白と緑のリード線が Port C の送受信、黄色のリード線がグラウンド、赤と黒のリード線が電源のプラスマイナスに接続されています。橙色のリード線とシールド線は接続されていません。

V102 GPS Compass 接続表を参照し、V102 GPS Compass のケーブルの Port A と電源に CW-376-5M を半田付けしてください。GPS コンパスとしてレーダーにも接続する場合は、Port C にもう1本の CW-376-5M を半田付けしてください。V102 GPS Compass のケーブルの黄色線(GND)は4本に分岐させ、2本の CW-376-5M のそれぞれの赤(TX-)と黒(RX-)に半田付けしてください。半田付け後、接続部を自己融着テープ等で防水および絶縁処理をしてください。



V102 GPS Compass ケーブル接続図

V102 GPS Compass との接続表

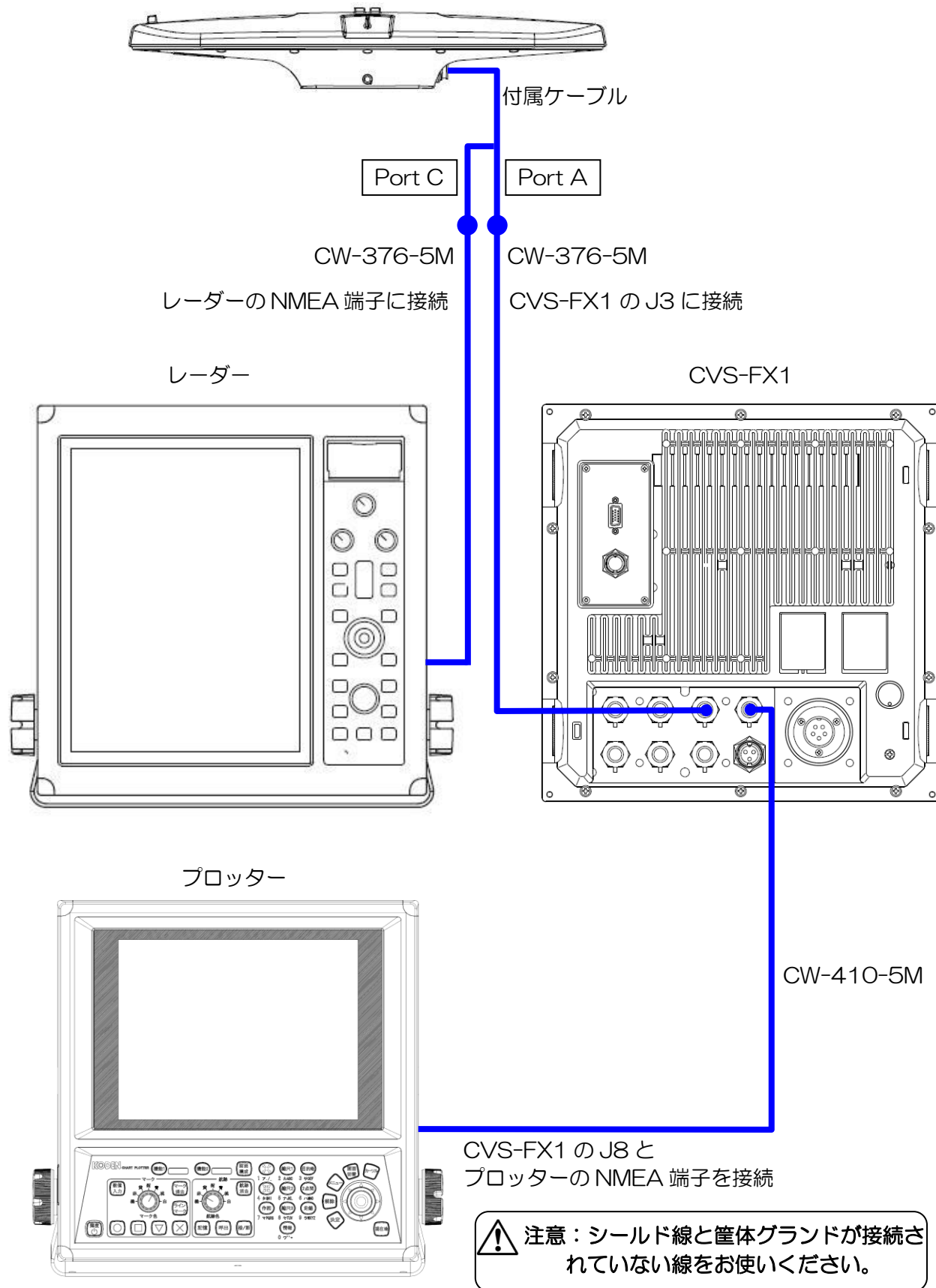
接続先コネクター		CW-376-5M 接続先コネクター J3		CW-376-5M 接続先レーダー		V102 GPS Compass ケーブル		
番号	J3	ケーブル色	信号名	ケーブル色	信号名	色	信号名	Port
1	外部用電源(－)	青＋シールド	GND	－	－	黒	PWGND	Port A
2	NMEA2 TX＋	白	TX＋	－	－	茶	RX1＋	
4	NMEA2 RX＋	橙	RX＋	－	－	青	TX1＋	
6	外部用電源(＋)	緑	＋12V	－	－	赤	PWinput	
3	NMEA2 TX－	赤	TX－	－	－	黄	Si g GND	Port C
5	NMEA2 RX－	黒	RX－	－	－			
番号	レーダーの NMEA							
3	NMEA TX－	－		赤	TX－			
5	NMEA RX－	－		黒	RX－			
1	NMEA－	－		青＋シールド	－	－	－	
2	NMEA TX＋	－		白	TX＋	緑	RX2＋	
4	NMEA RX＋	－		橙	RX＋	白	TX2＋	
6	NC	－		緑	－	－		



注意：使用しないリード線は、芯線同士が接触しないようテープ等を巻いて絶縁処理をしてください。

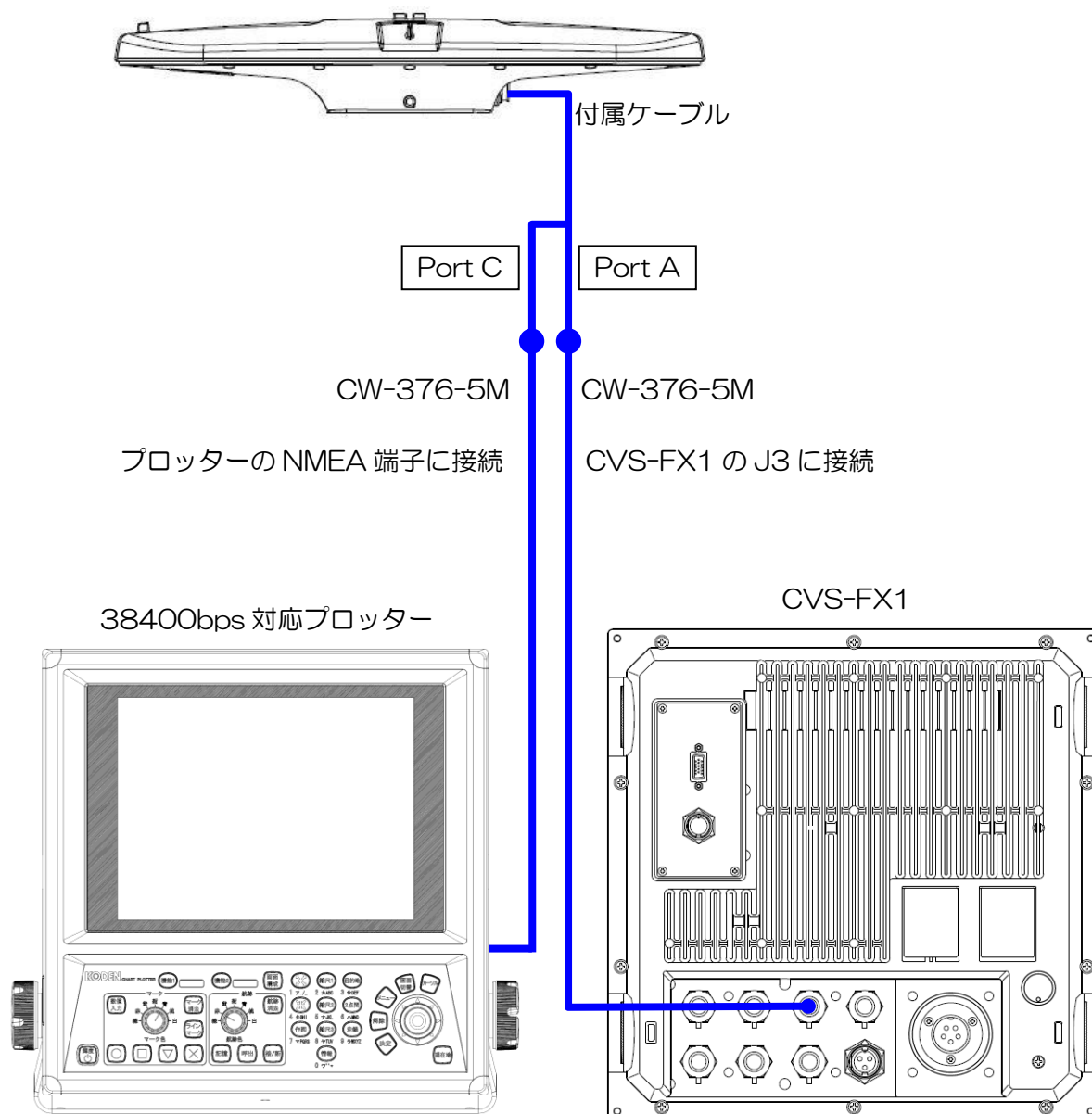
- Port A との半田付けが終了した CW-376-5M は、CVS-FX1 の J3 コネクタ（NMEA 端子 12V 電源あり）に接続してください。
- レーダーにも接続し GPS コンパスとして接続する場合は、Port C と半田付けが終了した CW-376-5M をレーダーの NMEA 端子へ接続してください。（総合接続図 1 参照）
レーダーが無く、38400bps で通信できるプロッターに接続する場合には、Port C と半田付けが終了した CW-376-5M をプロッターの NMEA 端子へ接続してください。（総合接続図 2 参照）
それ以外の場合は Port C との接続の必要はありません。（総合接続図 3 参照）
- 総合接続図 1～3 を参照して、CVS-FX1 の J8 端子と NMEA で通信する他の機器を接続してください。

Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass



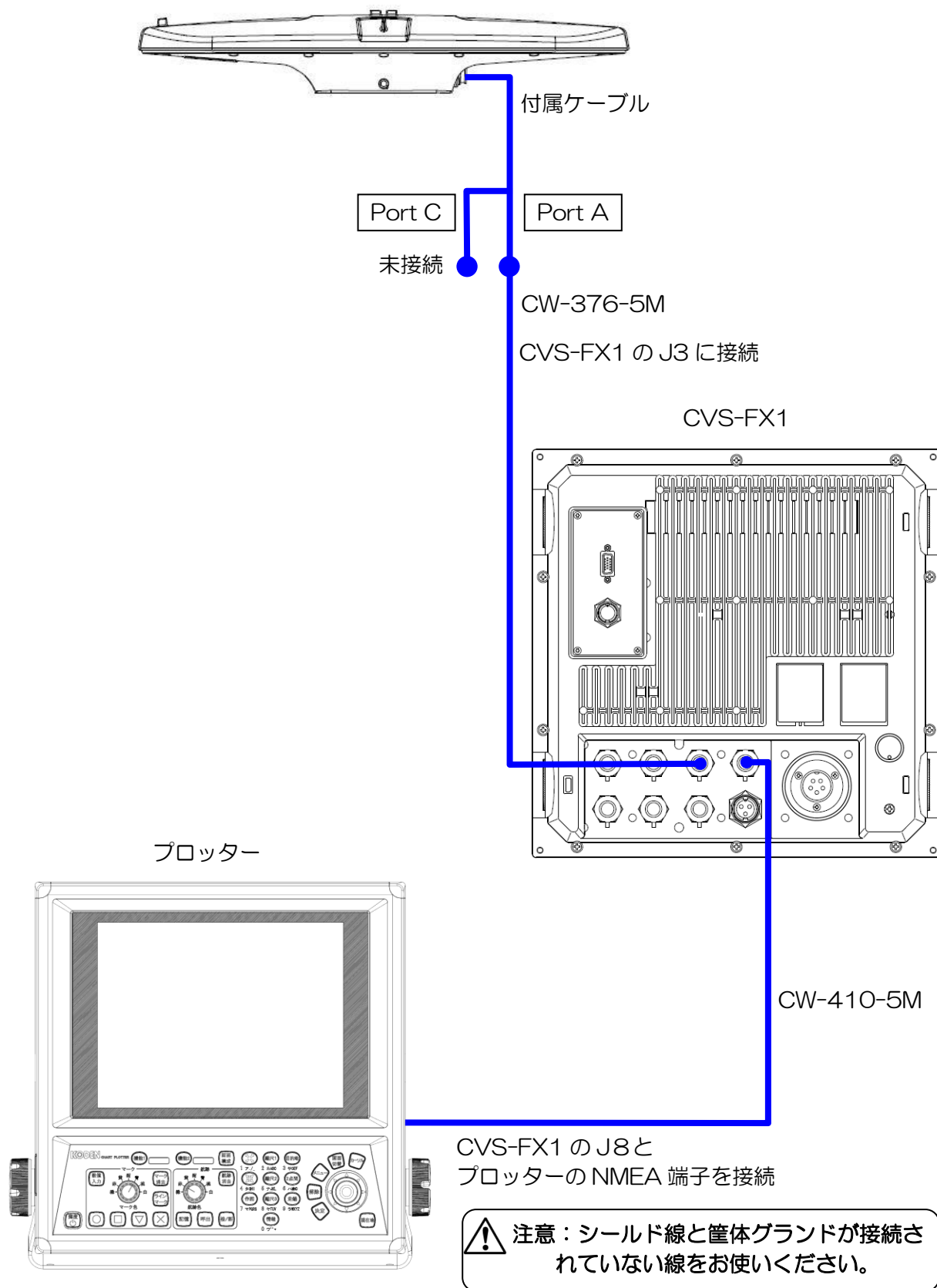
総合接続図 1

Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass



総合接続図 2

Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass



総合接続図 3

1.5.2 Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の設定

Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass は接続しただけでは GPS コンパス、ヒーピングセンサーとしてのデータを出力しません。
そのために、CVS-FX1 から、これらのデータを出力させるための初期化を行います。
以下、Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass を「V102 GPS Compass」と記します。

1. V102 GPS Compass に GPS コンパス、ヒーピングセンサーとしてのデータを出力させるための初期化を行います。

- 1)  を押し、サブメニューを表示します。

システム	言語選択	日本語
入出力	距離・船速単位	NM, k n
NMEA 1	測深単位	m
NMEA 2	水温単位	°C
補正	時差設定	9.0
ヒーピング	GPS選択	その他
TD設定	GPS初期化設定	いいえ
基本設定	戻る	
カスタマイズ		
保守		
ネットワーク		
サンプリング		
特殊調整		

- 2) [基本設定] — [GPS 選択]を選択します。

システム	言語選択	日本語
入出力	距離・船速単位	NM, k n
NMEA 1	測深単位	m
NMEA 2	水温単位	°C
補正	時差設定	9.0
ヒーピング	GPS選択	その他
TD設定	GPS初期化設定	いいえ
基本設定	戻る	
カスタマイズ		
保守		
ネットワーク		
サンプリング		
特殊調整		

- 3)  の「▶」を押します。

GPS 選択の設定ボックスを表示します。



- 4) 「▲」、「▼」を押し、[V102]または[VectorG1]を選択します。

- 5)  を押し[基本設定]に戻ります。

システム	言語選択	日本語
入出力	距離・船速単位	NM, kn
NMEA1	測深単位	m
NMEA2	水温単位	°C
補正	時差設定	9.0
ヒーピング	GPS選択	VectorG1
TD設定	GPS初期化設定	いいえ
基本設定	戻る	
カスタマイズ		
保守		
ネットワーク		
サンプリング		
特殊調整		

- 6) [基本設定] — [GPS 初期化設定]を選択します。

システム	言語選択	日本語
入出力	距離・船速単位	NM, kn
NMEA1	測深単位	m
NMEA2	水温単位	°C
補正	時差設定	9.0
ヒーピング	GPS選択	VectorG1
TD設定	GPS初期化設定	いいえ
基本設定	戻る	
カスタマイズ		
保守		
ネットワーク		
サンプリング		
特殊調整		

- 7)  の「▶」を押します。

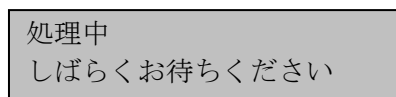
GPS 初期化設定の設定ボックスを表示します。



- 8) 「▲」、「▼」を押し、[はい]を選択します。

- 9)  を押します。

[処理中]のメッセージが表示されます。



- 10) 初期化が終了すると表示が消え、通常画面に戻ります。

これらの手順が完了すると、次のように設定されます。

CVS-FX1 の NMEA2 (J3) のボーレートが 38400bps に設定されます。

V102 GPS Compass の Port A のボーレートが 38400bps に設定されヒーピングデータが出力されます。

V102 GPS Compass の Port C のボーレートが 38400bps に設定され GPS コンパスデータが出力されます。



注意：Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass のヒーピングデータは、電源立ち上げ後に安定するまで 5 分間ほど時間を要します。その間ヒーピング補正が正しく行われないことがあります。故障ではありません。

2. CVS-FX1 の NMEA1 (J8) に接続する機器 (プロッター等) に対する出力設定をします。

J8 ポートのボーレートを設定します。
外部接続機器と伝送速度を合わせてください。

1)  を押します。

2) [NMEA1] - [ボーレート]を選択します。

システム	ボーレート	4800bps
入出力	DBT出力	OFF
NMEA1	DPT出力	OFF
NMEA2	GGA出力	OFF
補正	MTW出力	OFF
ヒーピング	TLL出力	OFF
TD設定	VHW出力	OFF
基本設定	VTG出力	OFF
カスタマイズ	ZDA出力	OFF
保守	GLL出力	OFF
ネットワーク	HDT出力	OFF
サンプリング	MWV出力	OFF
特殊調整	RMC出力	OFF
	戻る	
	0%	

3)  の「▶」を押します。

ボーレート設定ボックスを表示します。

ボーレート
4800bps
9600bps
19200bps
38400bps

4) 「▲」、「▼」を押し、NMEA1 側のボーレートを選択します。

5)  を押して[NMEA1]に戻ります。

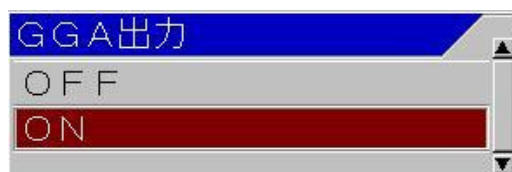
NMEA1 の出力を選択します。
外部接続機器と出力を合わせてください。

- 1) [NMEA1] — [XXX 出力]を選択します。

システム	ボーレート	4800bps
入出力	DBT出力	OFF
NMEA1	DPT出力	OFF
NMEA2	GGA出力	OFF
補正	MTW出力	OFF
ヒーピング	TLL出力	OFF
TD設定	VHW出力	OFF
基本設定	VTG出力	OFF
カスタマイズ	ZDA出力	OFF
保守	GLL出力	OFF
ネットワーク	HDT出力	OFF
サンプリング	MWV出力	OFF
特殊調整	RMC出力	OFF
	戻る	
	0%	

- 2)  の「▶」を押します。

出力センテンスの設定ボックスを表示します。



- 3) 「▲」、「▼」を押し、出力を有効にするときは [ON]を、無効にするときは[OFF]を選択します。
- 4)  を押して NMEA1 に戻ります。
- 5) 他の出力を設定する場合は 1)から 4)を繰り返します。
- 6) 設定が終了したら  を押して[サブメニュー]を終了させます。

付録

Hemisphere V102 GPS Compass の工場出荷時設定値

Port A

ボーレート	19200bps					
NMEA センテンス	GPGGA	GPVTG	GPGSV	GPZDA	GPHDT	GPROT
送信間隔	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒

Port C

ボーレート	19200bps					
NMEA センテンス	GPGGA	GPVTG	GPGSV	GPZDA	GPHDT	GPROT
送信間隔	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒

ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の工場出荷時設定値

Port A

ボーレート	4800bps					
NMEA センテンス	GPGLL	GPVTG	GPZDA	GPDM	GPHDT	GPROT
送信間隔	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒

Port C

ボーレート	4800bps		
NMEA センテンス	GPHDM	GPHDT	GPVTG
送信間隔	0.1 秒	0.1 秒	1 秒

CVS-FX1 で初期化後の Hemisphere V102 GPS Compass / ComNav Vector G1 GPS Satellite Compass の設定値

Port A

ボーレート	38400bps					
NMEA センテンス	GPGGA	GPVTG	GPZDA	GPHDT	GPHEV	GPHPR
送信間隔	1 秒	1 秒	1 秒	0.1 秒	0.1 秒	0.1 秒

Port C

ボーレート	38400bps					
NMEA センテンス	GPGGA	GPVTG	GPZDA	GPHDT	GPGSA	GPGSV
送信間隔	1 秒	1 秒	1 秒	0.1 秒	1 秒	1 秒

1. 6 入出力センテンスの一覧

1.6.1 入力センテンス

GGA、GLL、HDT、MTW、MWV、MWD、RMC、VHW、VTG、ZDA のセンテンスを受信できます。

入力の型式は、NMEA0183 Ver1.5、Ver2.0 および Ver3.0 が可能です。

情報	センテンス優先順位	情報	センテンス優先順位
緯度経度	GGA>RMC>GLL	風向	MWV>MWD
進路	VTG>RMC	風速	MWV>MWD
船首方位	HDT>RMC>VTG	日付	ZDA>RMC
対地速度	RMC>VTG	時間	ZDA>RMC
対水速度	VHW>RMC>VTG	水温	MTW

1.6.2 出力センテンス

DBT、DPT、GGA、GLL、HDT、MTW、MWV、RMC、TLL、VHW、VTG、ZDA のセンテンスを送信できます。

出力の型式は、NMEA0183 Ver2.0で行います。ただし、DBT は、Ver1.5で行います。

センテンス	情報	センテンス	情報
DBT	送受波器からの水深	MWV	風向・風速
DPT	送受波器からの水深、 吃水値	RMC	緯度経度、進路、対地速度、日付
		TLL	ターゲット位置
GGA	緯度経度、時間	VHW	対水速度
GLL	緯度経度	VTG	進路、対地速度
HDT	船首方位	ZDA	日付、時間
MTW	水温		

—このページは空白です—

第2章 調整

2.1 送受波器の設定

送受波器による周波数や指向角などの違いを、使用する送受波器に合わせることで、正確な情報を提供します。

システム	高周波 TD の種類	広帯域型
入出力	低周波 TD の種類	広帯域型
NMEA 1	高周波 TD 1 設定	▶リスト
NMEA 2	高周波 TD 2 設定	▶リスト
補正	低周波 TD 1 設定	▶リスト
ヒーピング	低周波 TD 2 設定	▶リスト
TD 設定	海底検出開始位置 高	2.0m
基本設定	海底検出開始位置 低	2.0m
カスタマイズ	戻る	
保守		
ネットワーク		

2.1.1 高周波の送受波器の種類設定

TD 設定 - 高周波 TD の種類

高周波で実際に使用する送受波器の種類を選択します。映像に影響するので必ず設定を行ってください。

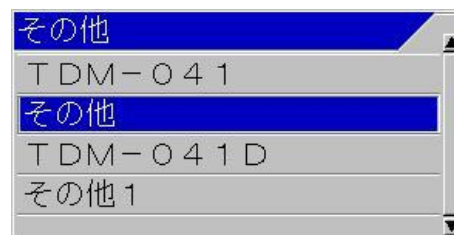
1.  を押します。
2. [TD 設定] - [高周波 TD の種類] を選択します。
3.  の「▶」を押します。
高周波 TD の種類設定ボックスを表示します。
4. 「▲」、「▼」を押し、広帯域型送受波器を使用するときは、[広帯域型] を選択します。それ以外の送受波器を使用するときは、[その他] を選択します。高周波側の送受波器を使用しないときは、[OFF] を選択します。

5. 「▶」を押します。

[広帯域型] を選択した場合、広帯域型設定ボックスを表示します。



[その他] を選択した場合、その他設定ボックスを表示します。



「その他」は、高周波を1周波、低周波を1周波、設定できます。

「その他1」は、高周波を2周波、低周波を2周波、設定できます。

6. 「▲」、「▼」を押し、使用する送受波器の種類を選択します。

「広帯域型」で選択した送受波器は、低周波側の「広帯域型」にも反映されます。

7.  を押してメニューを閉じます。

2.1.2 低周波の送受波器の種類設定

TD 設定 - 低周波 TD の種類

低周波で実際に使用する送受波器の種類を選択します。映像に影響するので必ず設定を行ってください。

1.  を押します。
2. [TD 設定] — [低周波 TD の種類] を選択します。
3.  の「▶」を押します。

低周波 TD の種類設定ボックスを表示します。

4. 「▲」、「▼」を押し、広帯域型送受波器を使用するときは、[広帯域型] を選択します。それ以外の送受波器を使用するときは、[その他] を選択します。低周波側の送受波器を使用しないときは、[OFF] を選択します。
5. 「▶」を押します。

[広帯域型] を選択した場合、
広帯域型設定ボックスを表示します。

[その他] を選択した場合、
その他設定ボックスを表示します。

6. 「▲」、「▼」を押し、使用する送受波器の種類を選択します。

「広帯域型」で選択した送受波器は、高周波側の「広帯域型」にも反映されます。

7.  を押してメニューを閉じます。

2. 2 送受波器の周波数設定

高周波および低周波の、送受波器の周波数の設定ができます。

2.2.1 高周波の送受波器の周波数設定

TD 設定 - 高周波 TD 1 設定

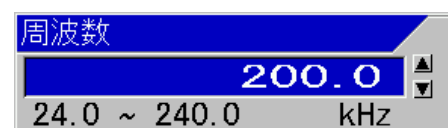
1.  を押します。
2. [TD 設定] — [高周波 TD 1 設定] を選択します。
3.  の「▶」を押します。

高周波 TD 1 設定ボックスを表示します。



4. 「▲」、「▼」を押し [周波数] を選択します。
5. 「▶」を押します。

周波数設定ボックスを表示します。



6. 「▲」、「▼」を押し、周波数を設定します。
7.  を押してメニューを閉じます。

TD 設定 - 高周波 TD 2 設定

1.  を押します。
 2. [TD 設定] — [高周波 TD 2 設定] を選択します。
 3.  の「▶」を押します。
- 高周波 TD 2 設定ボックスを表示します。
4. 高周波 1 送受波器の設定と同様に行います。

5.  を押してメニューを閉じます。

2.2.2 低周波の送受波器の周波数設定

TD 設定 - 低周波 TD1 設定

1.  を押します。
2. [TD 設定] - [低周波 TD1 設定] を選択します。

3.  の「▶」を押します。

低周波 TD1 設定ボックスを表示します。

4. 高周波 1 送受波器の設定と同様に行います。
5.  を押してメニューを閉じます。

TD 設定 - 低周波 TD2 設定

1.  を押します。
2. [TD 設定] - [低周波 TD2 設定] を選択します。

3.  の「▶」を押します。

低周波 TD2 設定ボックスを表示します。

4. 高周波 1 送受波器の設定と同様に行います。
5.  を押してメニューを閉じます。

2.3 送受波器の指向角設定

高周波および低周波の、送受波器の指向角表

示の設定ができます。

2.3.1 高周波の送受波器の指向角設定

TD 設定 - 高周波 TD1 設定

1.  を押します。
2. [TD 設定] - [高周波 TD1 設定] を選択します。

3.  の「▶」を押します。

高周波 TD1 設定ボックスを表示します。



4. 「▲」、「▼」を押し、[指向角]を選択します。
5. 「▶」を押します。

指向角設定ボックスを表示します。



6. 「▲」、「▼」を押し、指向角を設定します。

送受波器の種類を選択する際、「広帯域型」を選択した場合、周波数を設定すると自動的に指向角が設定されます。

7.  を押してメニューを閉じます。

 注意：指向角の設定は、探知範囲表示に反映するものであり、実際の指向角が変わるものではありません。

TD 設定 - 高周波 TD2 設定

1.  を押します。
2. [TD 設定] - [高周波 TD2 設定] を選択します。
3.  の「▶」を押します。
高周波 TD2 設定ボックスを表示します。
4. 高周波 1 送受波器の設定と同様に行います。
5.  を押してメニューを閉じます。

 注意：指向角の設定は、探知範囲表示に反映するものであり、実際の指向角が変わるものではありません。

2.3.2 低周波の送受波器の指向角設定

TD 設定 - 低周波 TD1 設定

1.  を押します。
2. [TD 設定] - [低周波 TD1 設定] を選択します。
3.  の「▶」を押します。
低周波 TD1 設定ボックスを表示します。
4. 高周波 1 送受波器の設定と同様に行います。
5.  を押してメニューを閉じます。

 注意：指向角の設定は、探知範囲表示に反映するものであり、実際の指向角が変わるものではありません。

TD 設定 - 低周波 TD2 設定

1.  を押します。
2. [TD 設定] - [低周波 TD2 設定] を選択します。
3.  の「▶」を押します。
低周波 TD2 設定ボックスを表示します。
4. 高周波 1 送受波器の設定と同様に行います。
5.  を押してメニューを閉じます。

 注意：指向角の設定は、探知範囲表示に反映するものであり、実際の指向角が変わるものではありません。

2. 4 海底検出開始位置の設定

海底検出開始位置を指定すると、指定した深度より浅い水深は海底として検出しません。

2.4.1 高周波の海底検出開始位置設定

TD 設定 - 海底検出開始位置 高

高周波の海底検出開始位置を設定します。

1.  を押します。
2. [TD 設定] - [海底検出開始位置 高] を選択します。

3.  の「▶」を押します。

海底検出開始位置 高設定ボックスを表示します。



4. 「▲」、「▼」を押し、深度を設定します。
5.  を押してメニューを閉じます。

2.4.2 低周波の海底検出開始位置設定

TD 設定 - 海底検出開始位置 低

低周波の海底検出開始位置を設定します。

1.  を押します。
2. [TD 設定] - [海底検出開始位置 低] を選択します。

3.  の「▶」を押します。

海底検出開始位置 低設定ボックスを表示します。

4. 「▲」、「▼」を押し、深度を設定します。
5.  を押してメニューを閉じます。

2.5 吃水設定

補正 - 吃水

海面から送受波器の設置深度までの深さを設定します。通常は、船の吃水値を設定します。

(設定範囲：m 時：-10.0～10.0、ヒ口時：-6.0～6.0)

1.  を押します。
2. [補正] - [吃水]を選択します。

3.  の「▶」を押します。

吃水設定ボックスを表示します。

4. 「▲」、「▼」を押し、吃水を設定します。
5.  を押してメニューを閉じます。

2.6 送受波器の感度設定

補正 - 感度 (TD)

超音波信号の減衰による感度不足を補正することにより海底検出の精度の調整を行います。実際の海底よりも深い位置を海底と誤認識したり、大きな魚群を海底と誤認識する場合の補正ができます。

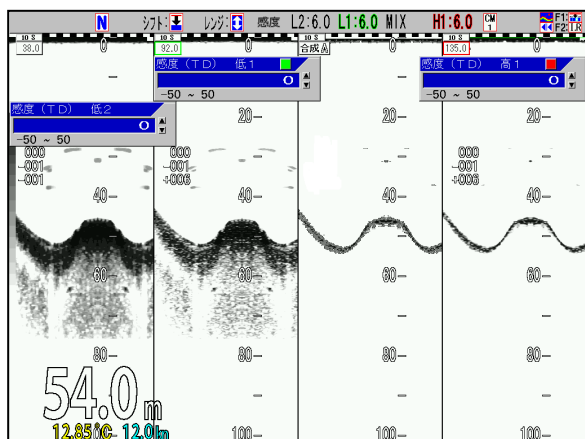
この設定値は、TDM-052 に最適な設定で出荷されます。よって、TDM-052 では、この設定を装備時に行う必要はありません。

⚠ 注意：インナーハル装備の場合、感度 (TD) の設定値は、船底の材質や加工方法で異なります。低周波側は船底での超音波信号の減衰が多く使用できない場合があります。

1.  を押します。
2. [補正] - [感度 (TD)]を選択します。

3.  の「▶」を押します。

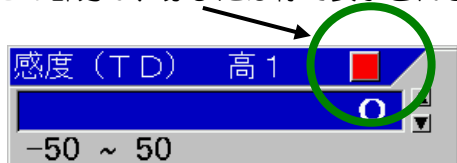
感度（TD）調整画面となり、周波数ごとに画面の上部に感度（TD）設定ボックスを表示します。



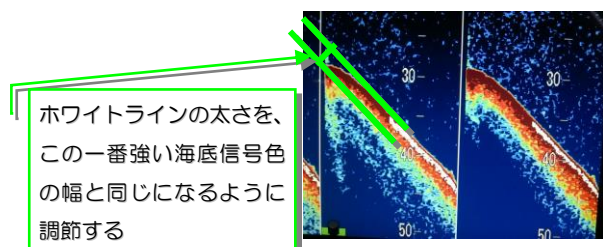
4. 赤色、または緑色に点灯している、変更したい側の感度つまみを回し、感度（TD）を設定します。

感度（TD）設定ボックスの右上に赤色の印があるときには、赤色で点灯している感度つまみを操作します。緑色の印があるときには、緑色で点灯している感度つまみを操作します。

この部分が、赤または緑で表示される



感度（TD）の合わせ方として、海底を示すホワイトラインが一番強い海底信号の色の幅と同じ太さになるように設定値を合わせます。



5. 変更したい側にある感度つまみを数回押し、変更する感度（TD）ボックスの場所を移動します。（右上の赤色の印が移動します。）

画面が2画面以上あるときは、変更したい画面側の感度つまみを押してください。押したほうの感度つまみが赤色に変わります。（3画面の中央の画面は、右側となります。）

6. **メニュー** を押してメニューを閉じます。

2.7 出力制限の設定

標準送受波器以外の低出力の送受波器を接続する場合に、送信機の出力を制限するための設定を行います。

システム	TD感度オフセット高1	0
入出力	TD感度オフセット高2	0
NMEA1	TD感度オフセット低1	0
NMEA2	TD感度オフセット低2	0
補正	パレット切替え	1410タイプ
ヒーピング	出力制限（高周波）	60
TD設定	出力制限（低周波）	50
基本設定	デジトラ	OFF
カスタマイズ	ヒーピング情報	OFF
保守	干渉除去調整	60
ネットワーク	ボトム調整	▶リスト
デジトラ	ボトム閾値調整	▶リスト
サンプリング	戻る	
特殊調整		

2.7.1. 出力制限メニューの表示

- 電源が入っている場合は **輝度** を長押しして電源を OFF します。
- メニュー** と **F1** を同時に押しながら **輝度** を押して電源を ON します。
- 通常画面が表示されたら **サブメニュー** を押します。
- サブメニューの一番下に[特殊調整]が追加表示されます。

2.7.2. 高周波の出力制限の設定

- 「2.7.1 出力制限メニューの表示」の操作を実行し、サブメニューの一番下に[特殊調整]が追加された状態にします。

2.  を押します。

[特殊調整] — [出力制限(高周波)]を選択します。

3.  の「▶」を押します。

出力制限(高周波)のメニューが表示されます。



4. 「▲」、「▼」を押し、出力制限を設定します。

⚠ 注意：1kW の送受波器を接続する場合は[60]に設定してください。

5.  を押してメニューを閉じます。

2.7.3. 低周波の出力制限の設定

1. 「2.7.1 出力制限メニューの表示」の操作を実行し、サブメニューの一番下に[特殊調整]が追加された状態にします。

2.  を押します。

[特殊調整] — [出力制限(低周波)]を選択します。

3.  の「▶」を押します。

出力制限(低周波)のメニューが表示されます。

4. 「▲」、「▼」を押し、出力制限を設定します。

⚠ 注意：1kW の送受波器を接続する場合は[60]に設定してください。

5.  を押してメニューを閉じます。

2.7.4. [出力制限]の設定値と[メニュー][映像調整]の[送信出力]の設定値との関係

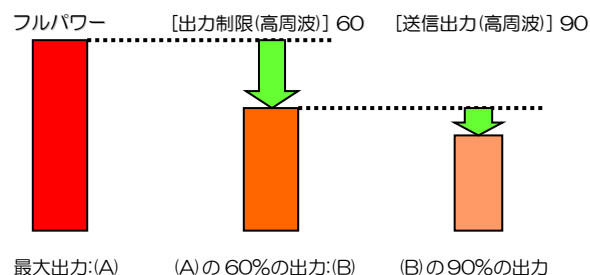
[出力制限(高周波)][出力制限(低周波)]は全てのCMキー共通で設定されます。

[送信出力(高周波)][送信出力(低周波)]はCMキー毎に個別に設定されます。

[出力制限(高周波)]は[送信出力(高周波)]の、[出力制限(低周波)]は[送信出力(低周波)]の元の出力を制限します。

[送信出力(高周波)]は[出力制限(高周波)]で、[送信出力(低周波)]は[出力制限(低周波)]で設定された元の出力に対し何%という形で設定されます。

たとえば、[出力制限(高周波)]が60で[送信出力(高周波)]が90ならば、実際の出力は元の出力を60%に制限した値のうち90%となります。



—このページは空白です—

第3章 保守

3. 1 点検

日常の保守・点検が機器の寿命を左右します。常に最良の状態を保つために、下表に示す点検を定期的実施してください。

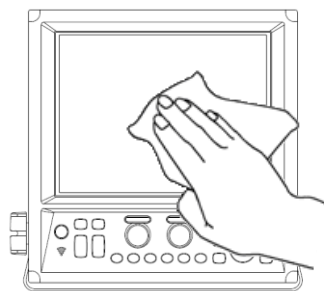
項目	点検内容
表示機の背面のコネクター	ゆるんでいないかを点検してください。
ケーブルの配線	機器間のケーブル結線やケーブルの破損がないかを点検してください。
表示機本体のアース	アース端子にさびが付着していないことを点検してください。

3. 2 清掃

3.2.1 表示機

表示画面が汚れていると映像が不鮮明になります。表示画面の清掃の際には、薄めた中性洗剤をしみこませた柔らかく清潔な布で拭いてください。表示画面は傷がつきやすいので十分に注意してください。また、シンナー等は使用しないでください。

 注意	画面には、特殊なコーティングがしてあります。シンナー、アセトン、アルコール、ベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。強くこすると画面に傷がつく恐れがあります。
---	---

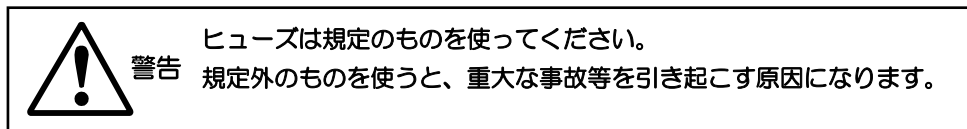


筐体の清掃には、シンナーやアルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。表面の塗装や操作部の文字が溶ける場合があります。薄めた中性洗剤をしみこませた柔らかく清潔な布で拭いたあと乾拭きしてください。

3.2.2 送受波器

送受波器がスルーハル装備の場合には、送受波器開口部（超音波が発信される部分）の表面を点検します。フジツボ等の貝類やオイル等が付着している場合は、木製、または竹製のヘラ等で表面を傷付けないようにこすり、付着物を取り除きます。強くこすると表面が傷付き送受波器の性能が劣化するので注意してください。

3. 3 ヒューズ交換



入力電圧が高すぎたり、過電流が流れたり、内部が故障したときにヒューズが切れます。ヒューズは電源ケーブル内にあります。ヒューズ交換の際は、標準機器構成リストに記載されているヒューズに交換してください。

3. 4 故障診断

この章では、船上において故障部位を見つける為に、簡単な故障発見手順について述べます。

3.4.1. 修理を依頼するときに必要な情報

下記の項目について、お知らせください。

- (1) 船名、衛星通信システムを装備している場合は電話番号
- (2) 機器の型式名
- (3) 機器の製造番号
- (4) 「タイトル画面」に表示される「システムソフトウェアのバージョン番号」
- (5) 次回の寄港地、到着予定および代理店名
- (6) 故障状況および船上での点検結果

3.4.2. 診断テスト

自己診断としてパネルテストや LCD テストができます。

パネルテストは、キーの入力の確認の他、表示画面上部にシステムの現在の状態が表示されます。

LCD テストは、マス目、白、黒、赤、緑、青の順にキーを押すごとに、表示が切り替わります。

1.  を押します。

2. [保守] — [システムチェック]を選択します。

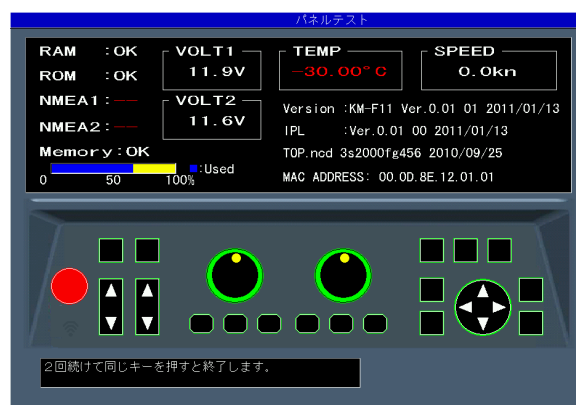
3.  の「▶」を押します。

システムチェック設定ボックスを表示します。



4. 「▲」、「▼」を押し、パネルテスト、またはシステム状態の確認を行うときは、[パネルテスト]を選択します。LCD のチェックを行うときは、[LCD テスト]を選択します。
5. 「▶」を押します。

「パネルテスト」を選択した場合は、パネルテスト画面が表示されます。



システム状態は上図の様に画面に表示されます。

キーを押し、キーが認識されると対応した画面のキーの色が変わります。続けて同じキーを押すとシステムテスト画面が終了し、システムチェック設定ボックスを表示します。

注意：パネルの LED は感度つまみ右、感度つまみ左、CM1～CM6 を押すと、緑色から赤色に変わります。もう一度押すと緑色に変わります。また、感度つまみを回すと内部ブザーが鳴ります。

- (1) 「RAM」は、RAM チェックを行った結果を表示します。
正常なら OK、異常なら NG と表示されます。
- (2) 「ROM」は、ROM チェックを行った結果を表示します。
正常なら OK、異常なら NG と表示されます。
- (3) 「NMEA1」は、J8 ポートの確認を行います。パネルテスト画面を表示する時に確認を行いますので、画面を表示させる前に治具を取り付けてください。
未実行なら —、正常なら OK、異常なら NG と表示されます。
- (4) 「NMEA2」は、J3 ポートの確認を行

います。パネルテスト画面を表示する時に確認を行いますので、画面を表示させる前に治具を取り付けてください。未実行ならー、正常なら OK、異常なら NG と表示されます。



注意：[NMEA1]、[NMEA2]のポートの確認を行うには、専用の治具が必要です。

- (5) 「Memory」は、内部メモリの状態を表示します。
正常なら OK、異常なら NG と表示されます。また、メモリの使用割合も同時に表示します。
- (6) 「VOLT1」は、+12V ラインの電圧値を表示します。
異常範囲の場合、赤色で表示されます。
- (7) 「VOLT2」は、電源入力ラインの電圧値を表示します。この電圧が異常範囲になると警報音が鳴り、警報メッセージが表示されます。
異常範囲の場合、赤色で表示されます。
- (8) 「TEMP」は、水温センサーの水温を表示します。
未接続の場合、赤色で-30.0 と表示されます。
- (9) 「SPEED」は、船速センサーの速度を表示します。
異常な場合、赤色で表示されます。
- (10) 「Version」は、システムソフトのバージョン番号を表示します。
- (11) 「IPL」は、IPL のバージョン番号を表示します。
- (12) 「Top.ncd」は、FPGA データのバージョンを表示します。
- (13) 「MAC ADDRESS」は、ネットワークで使用するマックアドレスを表示します。

3.4.3. LCD テスト

「パネルテスト」と同様の手順でシステムチェック設定ボックスを表示させ、「LCD テスト」を選択します。

「▶」を押すと、マス目が表示されます。「▶」キーを押すごとに表示色が切り替わり、最後にシステムチェック設定ボックスを表示します。

3.4.4. システムの初期化

各 CM、またはシステム全体のメニューのすべての設定を、工場出荷時の状態に戻します。ただし、目的地データと画像記憶データはそのまま残ります。

1.  を押します。

2. [保守] — [工場出荷時設定]を選択します。

3.  の「▶」を押します。

工場出荷時設定ボックスを表示します。



4. 「▲」、「▼」を押し、指定した CM を初期化するときは、[CM1]から[CM6]を選択します。システム全体を初期化するときは、[システム全体]を選択します。

「CM1」から「CM6」を選択したときは、言語選択や単位など各 CM で共通で使用されている設定値は初期化されません。

「システム全体」を選択したときは、各 CM で共通で使用されている設定値も含め全ての設定値が初期化されます。

5. 「▶」を押します。

CM 初期化設定ボックスを表示します。

6. 「▲」、「▼」を押し、初期化を行うときは、[はい]を、初期化しないときは、[いいえ]を選択します。

7.  を押します。

「はい」のときは、初期化を行います。
「いいえ」のときは、メニューを閉じます。

 注意：[システム全体]を選択した場合、初期化後、英文表示となります。

3.4.5. プログラム更新

プログラムを更新する場合に使用します。
(販売店にお問い合わせください。)

1.  を押します。

2. [保守] – [プログラム更新]を選択します。

3.  の「▶」を押します。

プログラム更新設定ボックスを表示します。

4. 「▲」、「▼」を押し、プログラム更新を行うときは、[はい]を、更新をしないときは、[いいえ]を選択します。

5.  を押します。

「はい」を選択したときは、プログラム更新状態となり、「更新中、電源を切ら

ないでください」のメッセージを表示します。

「いいえ」を選択した時は、メニューに戻ります。

6. USB ROMライター、またはパソコンからプログラムをダウンロードします。

ダウンロード開始後、本機の「CM」キーが赤く CM1 から CM6 に向かって点滅します。

ダウンロードが完了したときに、両方の感度つまみが赤く点灯します。

7.  を5秒ほど押し続けて電源を切ります。

 注意：プログラム更新が途中で失敗した場合、一度電源を切ってください。再度、電源を投入するとダウンロード待ち状態画面で立ち上がります。もう一度、項目6からダウンロードを行ってください。

3. 5 故障かなと思ったら

症状	考えられる故障原因	対応策
電源を入れても何も表示されない。	・ヒューズが切れている。 ・電源電圧が規定範囲（10.8～31.2 VDC）を外れている。 ・電源ケーブルとバッテリーの接続不良。	・ヒューズを交換してください。（「3.3 ヒューズ交換」3-2 ページ参照） ・設定範囲内の電源を使用してください。 ・電源ケーブルとバッテリーの接続を確認してください。
起動するが、何も画面に表示されない。	・送受波器と表示機の接続不良。 ・LCD 表示部の不良。	・送受波器と表示機の接続を確認してください。 ・購入先の販売店、または営業所へご連絡ください。
干渉、雑音がひどい。	・送受波器の不適切な取り付け。 ・他船の魚群探知機からの干渉。	・送受波器の取り付け位置を確認してください。（「1.3 送受波器の取り付け」1-6 ページ参照） ・干渉除去を行ってください。
水温 / 船速表示が異常、または表示されない。	・センサーコネクタの接続不良。 ・水温 / 船速データの入力元の異常。	・センサーコネクタの接続を確認してください。 ・入力元を確認してください。
現在位置 / 進路表示が異常、または表示されない。	・本機と航法装置との接続不良。	・本機と航法装置との接続を確認してください。



株式会社光電製作所

上野原事業所 〒409-0112 山梨県上野原市上野原 5278 Tel: 0554-20-5860 Fax: 0554-20-5875

営業2部/関東営業所 〒146-0095 東京都大田区多摩川 2-13-24 Tel: 03-3756-6508 Fax: 03-3756-6831

北海道営業所 〒001-0032 北海道札幌市北区北 32 西 4-1-14 Tel: 011-792-0323 Fax: 011-792-0323

関西営業所 〒674-0083 兵庫県明石市魚住町住吉 1-5-9 Tel: 078-946-1466 Fax: 078-946-1469

九州営業所 〒819-1107 福岡県糸島市波多江駅北 3-8-1-105 号 Tel: 092-332-8647 Fax: 092-332-8649

www.koden-electronics.co.jp